

第3期ニセコ町自治創生総合戦略（案）

2025年（令和7年）3月

北海道ニセコ町



目次

第1部 本戦略策定の趣旨と現行戦略振り返り

- | | |
|---------------|---------|
| 1. 策定の趣旨と位置付け | … P. 3 |
| 2. 現行戦略の振り返り | … P. 5 |
| 3. 地域経済循環の状況 | … P. 10 |

第2部 人口ビジョン

- | | |
|-----------------|---------|
| 1. 人口ビジョンの位置づけ | … P. 12 |
| 2. 本町人口の推移と現状 | … P. 13 |
| 3. 人口の現状分析 | … P. 15 |
| 4. 就業・雇用などの現状分析 | … P. 19 |

第3部 総合戦略

- | | |
|--|---------|
| 1. 総合計画との関係性 | … P. 26 |
| 2. 地域ビジョンと総合戦略の体系 | … P. 27 |
| 3. 総合戦略策定の考え方 | … P. 28 |
| 4. 第3期自治創生総合戦略 | … P. 32 |
| 5. 基本目標ごとの方向性・具体的施策 | |
| ① 基本目標1：安心して住み続けることのできるまちづくり推進 | … P. 35 |
| ② 基本目標2：地域資源を生かした産業の育成と多様な働き方を実現できる環境づくり | … P. 37 |
| ③ 基本目標3：関係人口からの移住定住促進、居住環境の整備 | … P. 39 |

第4部 総合戦略の推進体制、進行管理

- | | |
|---------|---------|
| 1. 推進体制 | … P. 41 |
| 2. 進行管理 | … P. 42 |

参考資料

… P. 43



第1部 本戦略策定の趣旨と現行戦略振り返り

1. 趣旨と位置づけ

- 2014（平成26）年12月、国は、急激な人口減少や東京圏一極集中等に対処するため、人口減少対策や地方創生といった「まち・ひと・しごと創生」に向け、人口の長期ビジョンと総合戦略を策定した。
- その後、国は2019（令和元）年12月に長期ビジョンを改定した第2期総合戦略の策定を経て、コロナ禍やデジタル技術の浸透・進展等の社会情勢を踏まえ、地方創生に向けた基本的な考え方を「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指すとする「デジタル田園都市国家構想」へと移行させ、2022（令和4）年12月、第2期総合戦略を抜本的に改訂し「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定した。

<デジタル田園都市国家構想総合戦略>

- ◆ デジタルの力を活用した地方の社会課題解決：デジタルの力を活用して地方の社会課題解決に向けた取組を加速化・進化
 - 地方に仕事をつくる
 - 人の流れをつくる
 - 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
 - 魅力的な地域をつくる
- ◆ デジタル実装の基礎条件整備：デジタル実装の前提となる取組を国が強力に推進
 - デジタル基礎の整備
 - デジタル人材の育成・確保
 - 誰一人取り残されないための取組



第1部 本戦略策定の趣旨と現行戦略振り返り

1. 趣旨と位置づけ

- 本町においても、現行戦略が2025年（令和7年）3月に期限を迎えることから、本町の地方創生の取り組みを引き続き推進するため、国の総合戦略等を勘案し、本町の第3期戦略となる「第3期ニセコ町自治創生総合戦略」（以下、「本戦略」）を策定する。
- なお、本戦略は、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）第10条第2項に定める「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」としての位置づけとして、ニセコ町の実情に応じ、従来の地方創生及びデジタル技術を活用した地域の社会課題解決、魅力向上等の施策を分野横断的に実施する計画とする。



第1部 本戦略策定の趣旨と現行戦略振り返り

2. 現行戦略の振り返り

- 本町の現行戦略について、下記のとおり3つの基本目標及びそれに紐づく基本方針を定め各種の取り組みを推進してきた。

<第2期ニセコ町自治創生総合戦略 基本目標及び基本方針>

- ◆ 【基本目標Ⅰ】地域資源を生かした産業の育成と多様な働き方を実現できる仕組みづくり
 - 地域資源を生かした産業の創出・振興
 - 持続可能な農業の展開
 - 地域産業を支える人材の育成と雇用の創出
- ◆ 【基本目標Ⅱ】交流人口、関係人口の拡大と居住環境の整備
 - 地域資源を生かした観光の振興
 - 「関係人口」の拡大
 - 戦略的な移住・定住対策の推進
 - 住宅の整備・確保の推進
- ◆ 【基本目標Ⅲ】魅力的で持続可能なまちづくりの推進
 - ニセコへの共感、愛着心の醸成
 - 安心して住み続けることのできる生活環境の整備



第1部 本戦略策定の趣旨と現行戦略振り返り

2. 現行戦略の振り返り 【基本目標Ⅰ】地域資源を生かした産業の育成と多様な働き方を実現できる仕組みづくり

- 道の駅直売所における農産物の売上高の成長及びワイン特区の活用が促進されたことで、地域資源を生かした魅力的な産業を育成に関しては一定の進捗がみられた。
- 「季節雇用の担い手マッチング」及び「新規事業所数」は伸び悩む一方で、民間事業者と連携したスポットワークサービスの利用促進など、新たな雇用のマッチング及び多様な働き方が出来る環境整備を進めた。

項目		策定期		R2（2020）		R3（2021）		R4（2022）		R5（2023）		目標値		進捗率
数値目標	完全失業者数（人以下）	H27	135	H27	135	R2	132	R2	132	R2	132	R7	160	121%
	納税義務者数一人当たり課税対象所得（千円）	H30	3,184	R2	3,051	R3	3,054	R4	3,122	R5	2,921	R6	3,300	「後退」
具体的施策 数値目標 (KPI)	温室効果ガス総排出量（CO2-t）	H29	63,106	H29	63,106	H29	63,106	R4	57,276	R4	57,276	R6	61,340	93%
	NISEKO生活・モデル地区の入居者数（人）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	R6	130	N/A	
	商工会会員数（件）	R1	183	R2	197	R3	207	R4	215	R5	226	R6	210	223%
	「道の駅ニセコビュープラザ」の直売所における農産物の売上額（百万円）	H30	300	R2	281	R3	302	R4	331	R5	336	R6	309	196%
	ワイン特区を活用して就農した農業者又は醸造所開設希望者の数（R2～R6）（人）	H30	1	R2	0	R3	0	R4	0	R5	4	R6	3	133%
	就農支援資金を活用して就農した農業者数（R2～R6）（人）	H30	12	R2	2	R3	7	R4	8	R5	8	R6	10	75%
	「季節雇用と担い手のマッチング」の件数（件）	H30	1	R2	0	R3	3	R4	0	R5	0	R6	3	「後退」
	新規事業所数（件）	H26	48	H26	48	R1	32	R1	32	R1	32	R6	50	「後退」

表1-1 第2期総合戦略【基本目標Ⅰ】振り返り



第1部 本戦略策定の趣旨と現行戦略振り返り

2. 現行戦略の振り返り 【基本目標II】交流人口、関係人口の拡大と居住環境の整備

- 社会増減に関して、コロナ過の影響も含めR4年度までは人口流出が続いたが、R5年度より大幅に回復した。また、関連してR4年度より観光入込客数、宿泊客延べ数も回復傾向にある。
- 移住相談の件数は増加傾向にある一方で、住宅整備が需要に追いつかず、町外からの移住・定住の機会損失に繋がっている恐れがある。

項目		策定時		R2 (2020)		R3 (2021)		R4 (2022)		R5 (2023)		目標値		進捗率
数値目標	総人口の社会増減(R2～R6)(人増加)※期間累計	H30	490	R2	-393	R3	-421	R4	-251	R5	393	R6	500	88%
具体的施策 数値目標 (KPI)	観光入込客数（万人）	H30	167	R2	94	R3	101	R4	143	R5	160	R6	200	62%
	宿泊客延数（万人泊）	H30	51	R2	30	R3	34	R4	55	R5	58	R6	60	93%
	うち日本人の宿泊客延数（万人泊）	H30	29	R2	30	R3	34	R4	44	R5	42	R6	35	240%
	うち外国人の宿泊客延数（万人泊）	H30	22	R2	0	R3	0	R4	11	R5	16	R6	25	64%
	ふるさとづくり寄付金の件数（R2～R6）(件)	H30	246	R2	452	R3	1,460	R4	1,150	R5	1,486	R6	1,000	189%
	ふるさと住民票の登録者数（累計値）(件)	H30	36	R2	92	R3	144	R4	183	R5	226	R6	180	152%
	移住相談窓口における面談件数(件)	-	-	R2	74	R3	71	R4	96	R5	97	R6	15	647%
	地域おこし協力隊員の卒業後の定住率（%）	H30	70	R2	73	R3	75	R4	69	R5	71	R6	70	101%
	住宅整備戸数（R2～R6）(戸)	H30	322	R2	43	R3	92	R4	123	R5	210	R6	350	54%
	空き家率（%）	H28	1.9	R2	1.7	R3	3.9	R4	3.5	R5	3.7	R6	5.0	100%
昼夜間人口比率（%）		H27	98.43	H27	98.43	R2	102.44	R2	102.44	R2	102.44	R7	93.00	「後退」

表1-2 第2期総合戦略【基本目標II】振り返り



第1部 本戦略策定の趣旨と現行戦略振り返り

2. 現行戦略の振り返り 【基本目標III】魅力的で持続可能なまちづくりの推進

- 将来ニセコに住みたいと考える高校生の割合が策定時より減少。高校以降のライフイベントの選択肢が限定されること等が影響している可能性がある
- 女性の労働率が高まる一方で、親子で利用できる施設（子育て支援センター）の利用者数が減少傾向となっており、共働き世帯が増加した推察される

項目		策定時		R2 (2020)		R3 (2021)		R4 (2022)		R5 (2023)		目標値		進捗率
数値目標	将来ニセコ町に住みたいと考える中学生・高校生の割合(%) - 中学生	R1	39.0	-	-	R3	51.0	-	-	R3	51.0	R6	50.0	102%
	将来ニセコ町に住みたいと考える中学生・高校生の割合(%) - 高校生	R1	40.0	-	-	R3	39.1	-	-	R3	39.1	R6	50.0	78%
	まちづくり全体についての満足度（住民アンケート調査）	R1	51.0	-	-	-	-	-	-	-	-	R6	60.0	-
具体的な施策 数値目標 (KPI)	学習交流センター（あそぶつく）の入館者数（人）	H30	40,496	R2	11,990	R3	19,876	R4	23,521	R5	23,479	R6	46,000	34%
	有島記念館の入館者数（人）	H30	13,081	R2	8,504	R3	6,073	R4	9,861	R5	46,156	R6	15,000	580%
	中央倉庫群の利用者数（人）	H30	7,722	R2	8,591	R3	8,014	R4	10,835	R5	9,060	R6	15,000	7%
	綺羅乃湯の利用者数（人）	H30	129,218	R2	102,693	R3	100,317	R4	139,064	R5	155,667	R6	130,000	194%
	国際交流イベントへの参加人数（人）	H30	1,653	R2	1,295	R3	2,795	R4	2,544	R5	1,409	R6	2,500	56%
	待機児童数（人以下）	H30	2	R2	2	R3	0	R4	0	R5	0	R6	0	100%
	子育て支援センター（おひさま）の利用者数（人）	H30	5,374	R2	1,706	R3	2,275	R4	2,146	R5	1,989	R6	6,000	7%
	ニセコこども館の利用登録者数（学童保育）（人）	H30	73	R2	54	R3	69	R4	71	R5	87	R6	80	127%
	放課後子ども教室の利用登録者数（人）	H30	42	R2	34	R3	60	R4	59	R5	67	R6	70	92%
	女性の労働率(%)	H27	53.5	H27	53.5	R2	57.9	R2	57.9	R5	57.9	R7	54.0	100%
デマンドバスの乗車人数（千人）		H30	17	R2	13	R3	14	R4	17	R5	17	R6	20	55%

表1-3 第2期総合戦略【基本目標III】振り返り



第1部 本戦略策定の趣旨と現行戦略振り返り

2. 現行戦略の振り返り 人口コホート分析（2020-2024年, 2015-2019年比較）

- 15歳～34歳：高校・専門学校・大学などの高等教育機関が近隣に少なく、就職に関しても地域の産業特性から選択肢が限定され町外への転居につながっていると推察される。
- 65歳～74歳：高齢者に関して、地域においてより高齢になった際の移動や除雪・介護等の理由から域外へ転居するケースがあると推察される。
- 次期総合戦略策定にあたっては、青年期のライフイベントに関する機会提供、高齢者や子どもが安全かつ快適に移動・生活できる交通インフラの確立は優先して取り組むべき課題と考えられる。

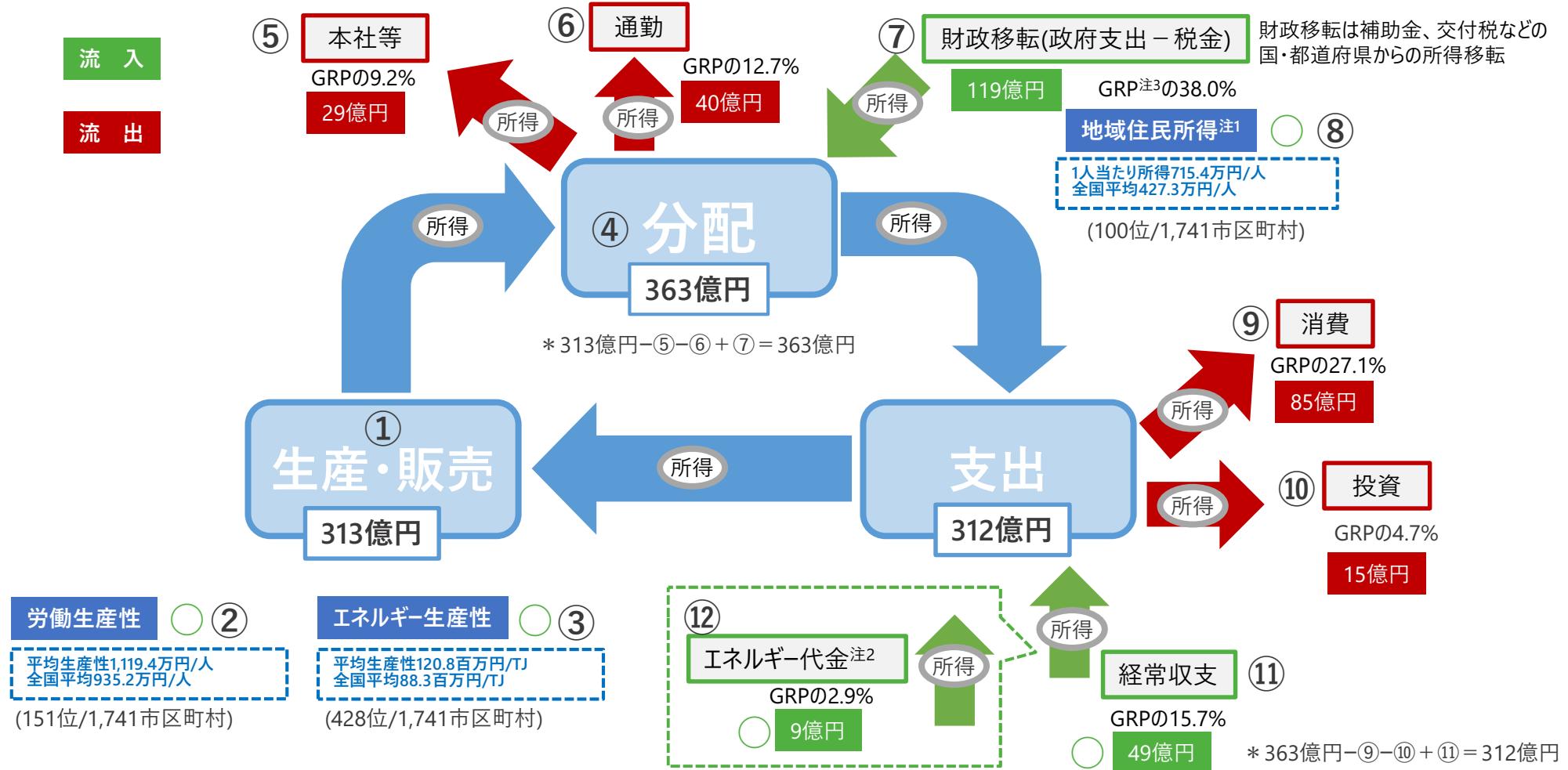


図1-1 第2期総合戦略 人口コホート分析



第1部 本戦略策定の趣旨と現行戦略振り返り

2. 地域経済循環の状況：地域の所得循環構造（2020年）



注1) 地域住民所得は、夜間人口1人当たりの所得(=雇用者所得+その他所得)を意味する。

注2) エネルギー代金の収支は経常収支の内数であり、原材料利用や本社・営業所等の活動(=非エネルギー)は含まれない。

注3) GRPは、地域の産業別付加価値額（地域の産業がどれだけ稼いでいるか）を意味する。

出所：地域経済循環分析（環境省、日本政策投資銀行グループ、価値総合研究所）



第1部 本戦略策定の趣旨と現行戦略振り返り

2. 地域経済循環の状況：地域の所得循環構造（2020年）

	地域の特徴	分析内容
生産販売	<ul style="list-style-type: none">① ニセコ町では、313億円の付加価値（総生産）を稼いでいる。② 労働生産性は1,119.4万円/人と全国平均^{*1}よりも高く、全国自治体では151位である。③ エネルギー生産性^{*2}は120.8百万円/TJと全国平均よりも高く、全国自治体では428位である。	<ul style="list-style-type: none">■ ニセコ町において、域内での労働生産性及びエネルギー生産性は全国平均を上回っている。
分配	<ul style="list-style-type: none">④ ニセコ町の分配は363億円であり、①の生産・販売313億円よりも大きい。⑤ また、本社等への資金として29億円が流出しており、その規模はGRPの9.2%を占めている。⑥ さらに、町外からの通勤に伴う所得として40億円が流出しており、その規模はGRPの12.7%を占めている。⑦ 財政移転によって119億円が流入しており、その規模はGRPの38.0%を占めている。⑧ 以上より、ニセコ町の1人当たり所得は715.4万円/人と全国平均よりも高く、全国で100位となっている。	<ul style="list-style-type: none">■ 生産販売により域内で稼いだ付加価値（総生産）は、町外の本社等及び町外からの通勤により一部所得流出しているが、財政移転による流入を含めると、生産販売以上の所得が賃金・人件費として分配、地域住民の所得(夜間人口1人当たり所得)に繋がっている。
支出	<ul style="list-style-type: none">⑨ ニセコ町では町外への買物や観光等で消費が85億円流出しており、その規模はGRPの27.1%を占めている。⑩ 投資は15億円流出しており、その規模はGRPの4.7%を占めている。⑪ 経常収支では49億円の流入となっており、その規模はGRPの15.7%を占めている。	<ul style="list-style-type: none">■ 買物や観光、投資により地域内で稼いだ所得以上に町外へ流出＝消費や投資が流入していない
エネルギー	<ul style="list-style-type: none">⑫ ニセコ町では、エネルギー代金が域外から9億円の流入となっており、その規模はGRPの2.9%を占めている。	<ul style="list-style-type: none">■ エネルギー代金の支払いにより域内に所得が流入している

*1人当たり名目労働生産性（就業者1人当たり付加価値額）は821万円（公益財団法人 日本生産性本部）

*2エネルギー生産性：エネルギーを効率よく活用し、所得を稼いでいるか否か

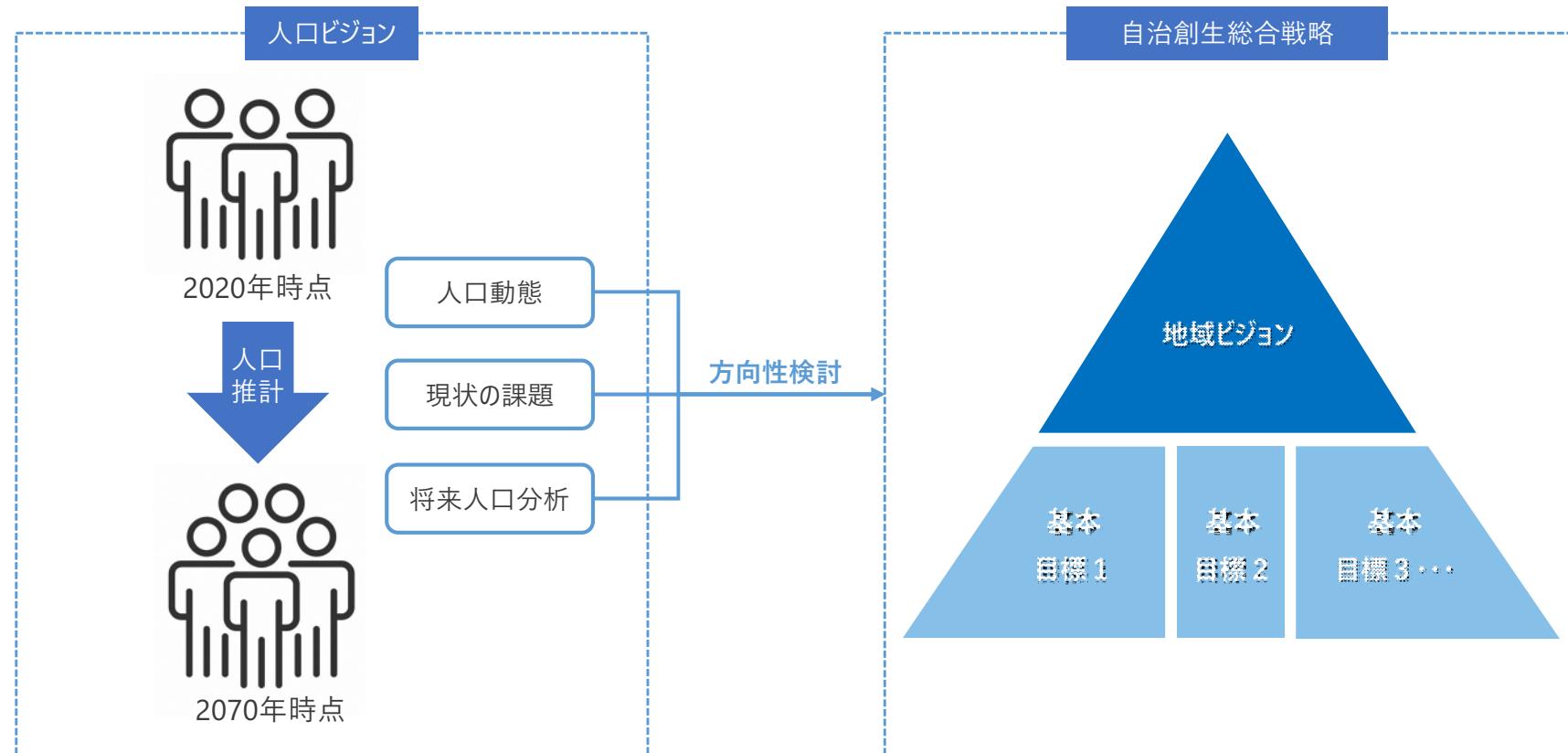
出所：地域経済循環分析（環境省、日本政策投資銀行グループ、価値総合研究所）



第2部 人口ビジョン

1. 人口ビジョンの位置づけ

- 総合戦略を策定するにあたり、ニセコ町における人口の現状を分析し、人口に関する住民の認識を深めるとともに、今後目指すべき将来の展望を整理、示したものが「人口ビジョン」である。
- 人口ビジョンは本町において今後実施すべき政策を定める際に重要となる人口動態や現状の課題、将来人口分析を踏まえ、第3期ニセコ町自治総合戦略の方向性を明らかにするために策定するものとする。
- 人口ビジョンの対象期間は、直近の国勢調査（2020年）を起点とし、その後50年にあたる2070年までの長期的な将来人口を推計する。



第2部 人口ビジョン

2. 本町人口の推移と現状

- ニセコ町総人口は、1980年（昭和55年）に4,567人で下げ止まり、以降はおむね増加傾向にある。
- 年齢3区分別人口より、長期的に減少が続いている年少人口及び生産年齢人口は、直近（2020年）数値はほぼ横ばいである。また増加が続いた高齢者人口についても直近（2020年）はほぼ変化は見られない。

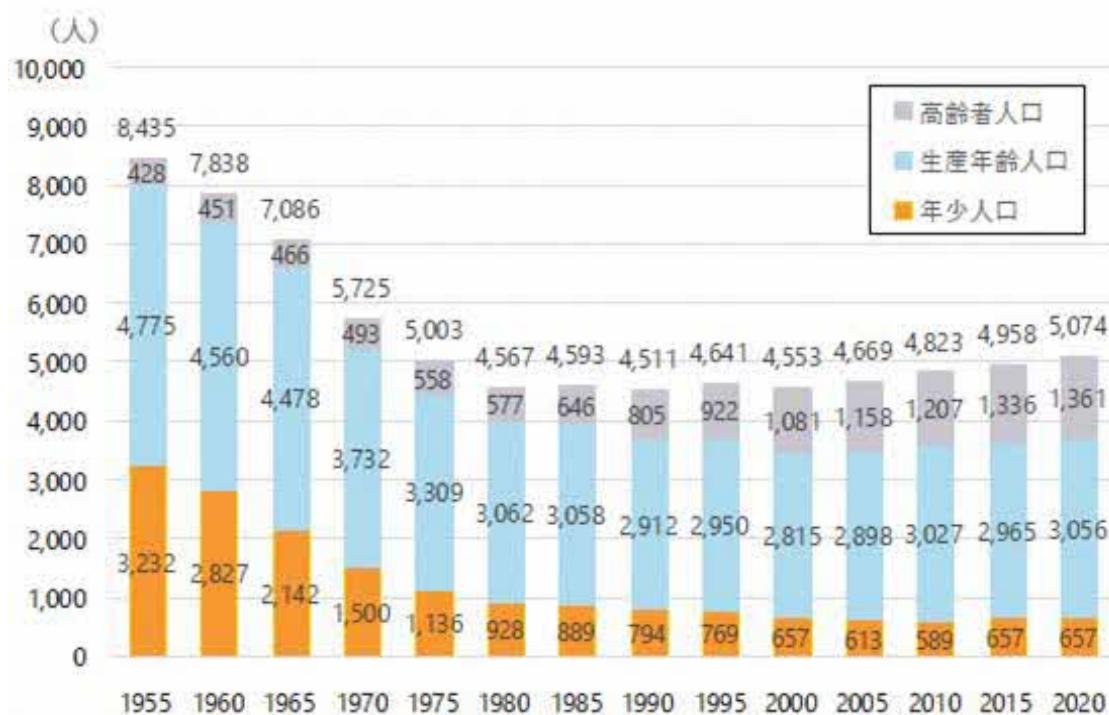


図2-1 総人口及び年齢3区分別人口の5か年ごとの推移（ニセコ町）

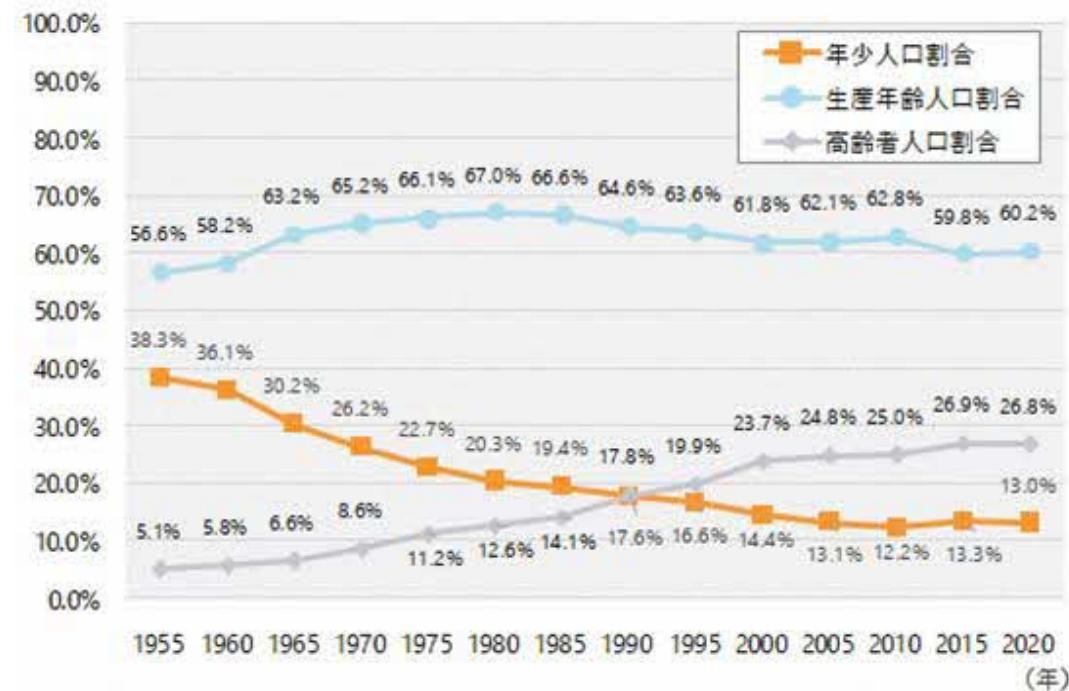


図2-2 年齢3区分別人口比率の推移（ニセコ町）

出所：総務省「国勢調査」



第2部 人口ビジョン

2. 本町人口の推移と現状

- ニセコ町の人口の推移を、総人口のほか日本人、外国人に分けてみると、毎年冬季（12月～2月）に住民登録数が大幅に増加し、春になると急激に減少している。これは特に外国人が観光業の季節労働のために転入し、季節労働が終わると転出する実態を反映している。
- 一方で、日本人については進学・就職を機に町外へ転出するケースが多いが、2020年3月以降は特に減少傾向が強まっている。

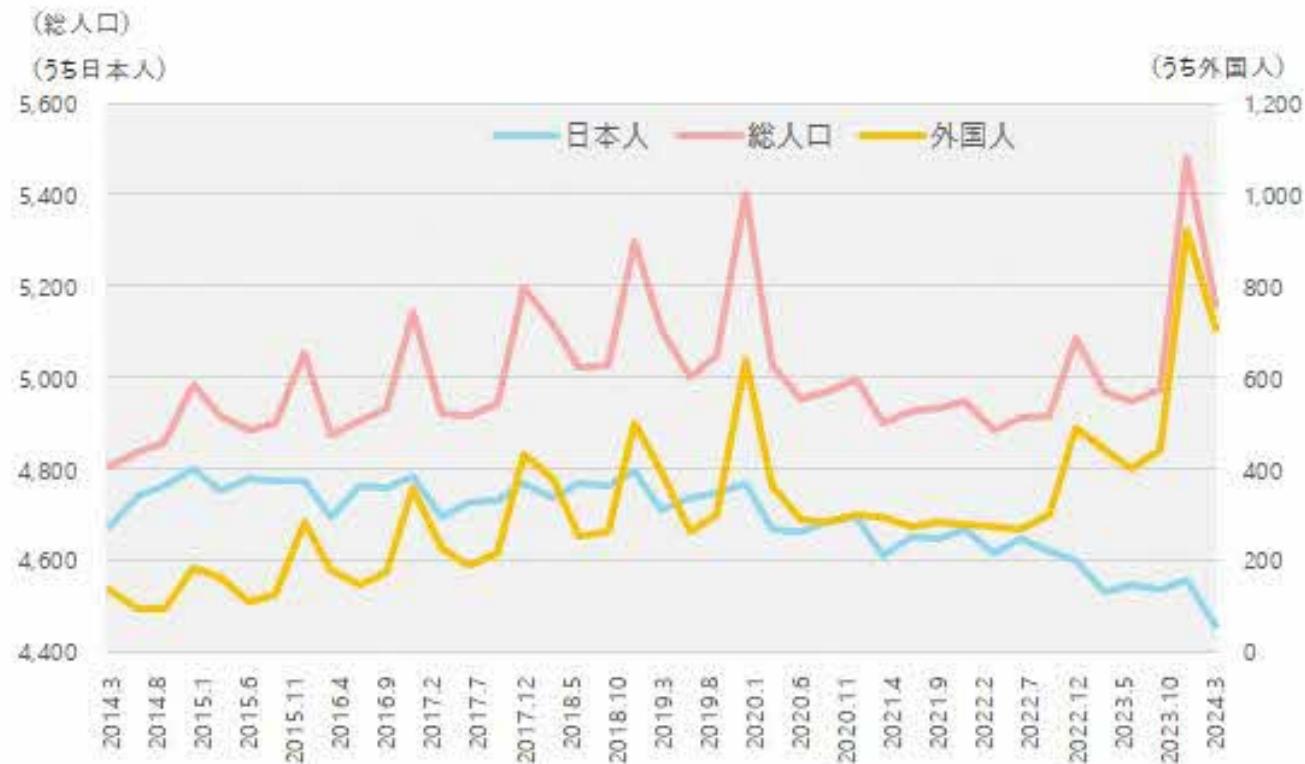


図2-3 総人口の月ごとの推移（ニセコ町）

出所：住民基本台帳



第2部 人口ビジョン

3. 人口の現状分析①自然増減_出生をめぐる状況（出生数・死亡数推移、合計特殊出生率）

- 出生数は2005年以降増加傾向を示していたが、2019年以降は自然減の傾向が続いている。
- 合計特殊出生率^{*1}は北海道や札幌市と比較し高水準で推移。直近2023年（令和5年）の合計特殊出生率は1.27となっている。

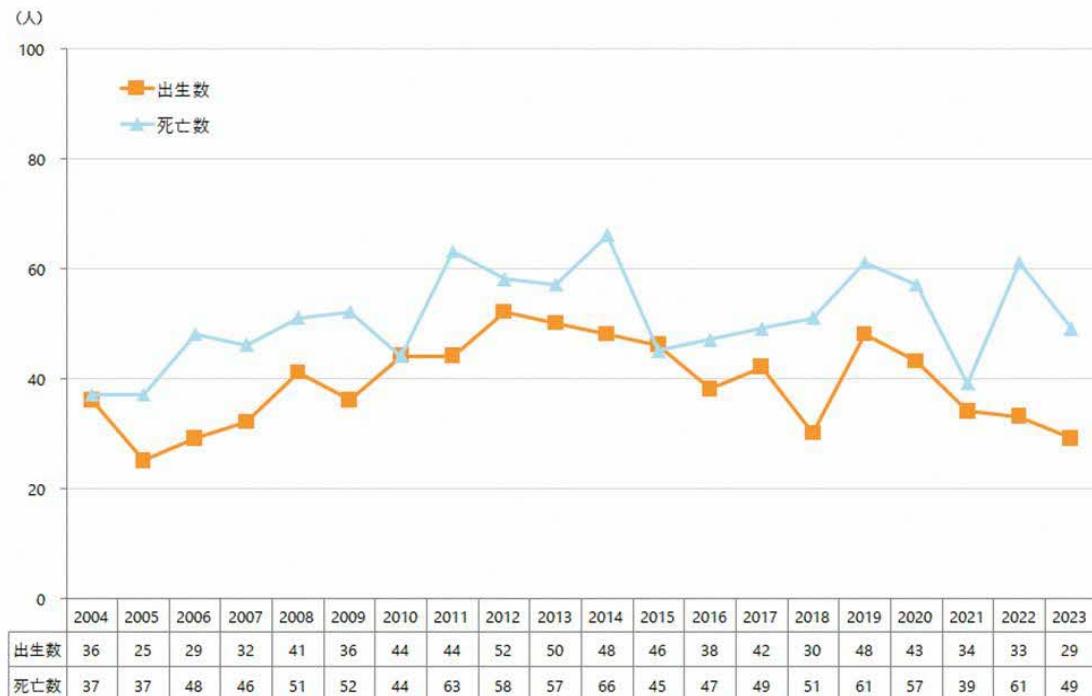


図2-4 出生数・死亡数の推移（ニセコ町）

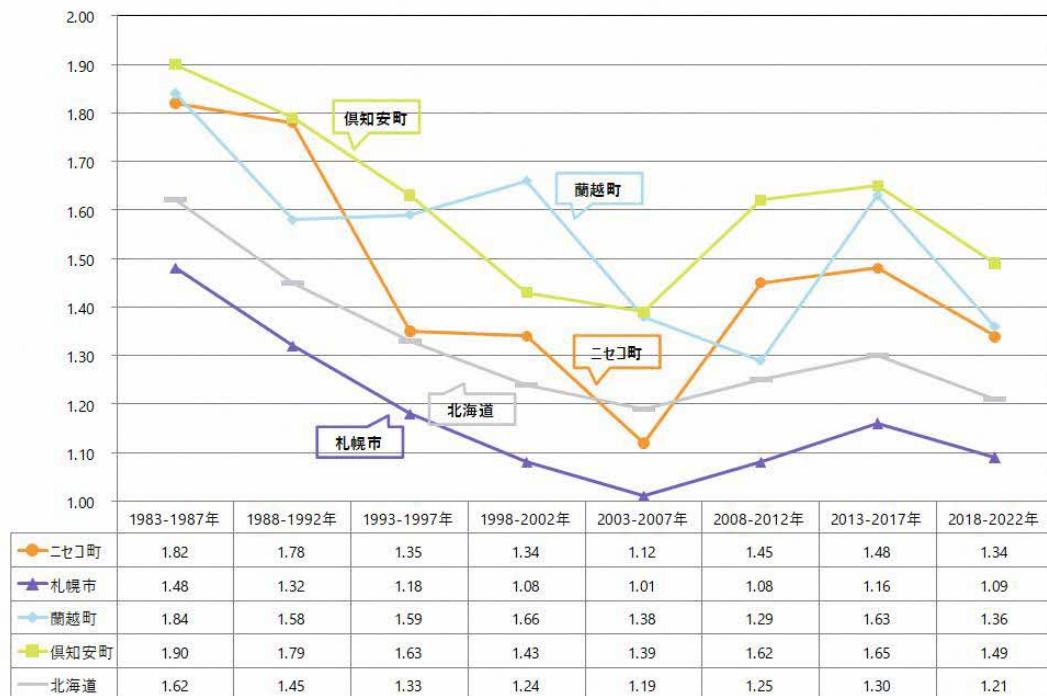


図2-5 合計特殊出生率^{*1}（他自治体との比較）

*1 合計特殊出生率：一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの子どもの数

出所：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

厚生労働省「人口動態調査」



第2部 人口ビジョン

3. 人口の現状分析①自然増減_婚姻をめぐる状況（20～30代有配偶者の推移）

- 全体傾向として、男性は前回調査（2015年）より微増、女性は減少傾向。
- 特に女性は20～24歳を除き前回調査を約5-9%下回る傾向が見受けられる。

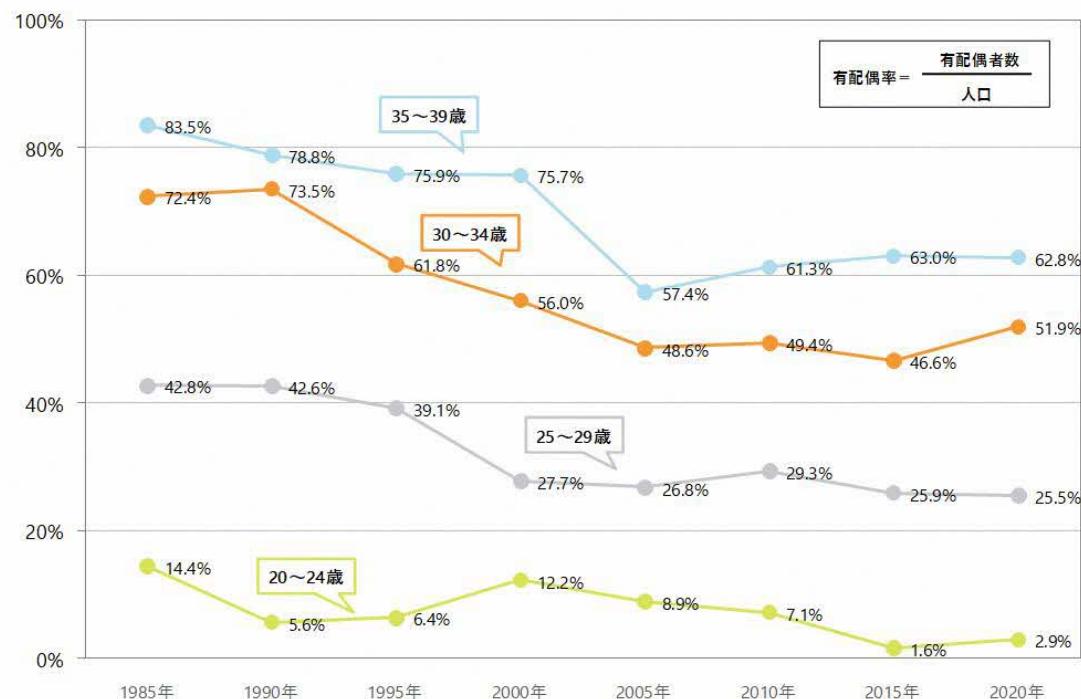


図2-6 有配偶者率の推移（男性、ニセコ町）

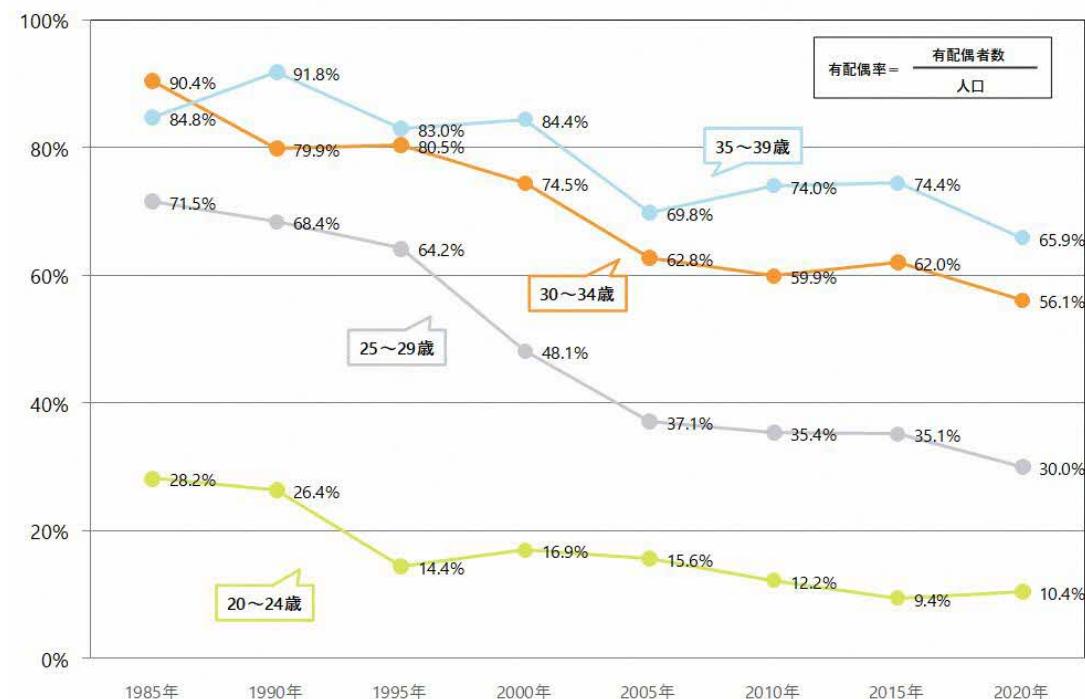


図2-7 有配偶者率の推移（女性、ニセコ町）

出所：総務省「国勢調査」



第2部 人口ビジョン

3. 人口の現状分析②社会増減_人口の移動をめぐる状況（人口移動の推移、転入・転出者数・純移動数の状況）

- 5歳階級別人口移動では15-19歳、20-24歳で大幅な減少がみられ、高校以降の進学や就職などの選択肢を求め町外へ転居していると推察される。
- また、直近2023年（令和5年）の5歳階級別移動数においても、特に20～29歳の年代で大幅な転出超過となっている。

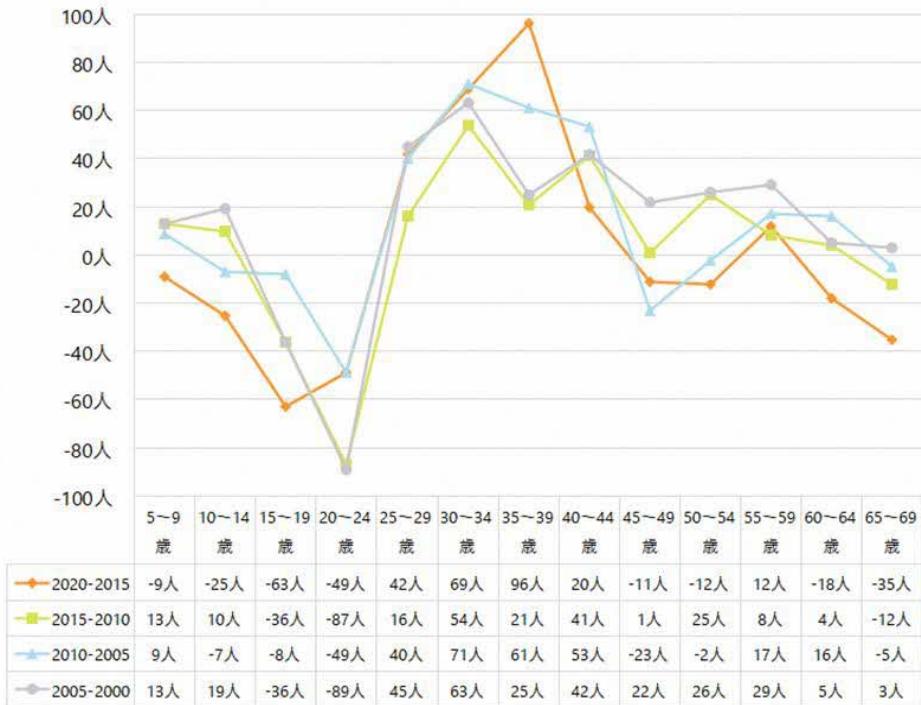


図2-8 5歳階級別人口移動の推移（ニセコ町）*1

*1 5歳階級別人口移動：ある国勢調査の年齢（5歳階級）別人口から、その5年前の5歳下の年齢別人口を引くことで、その年代の5年間の増減を見るもの



図2-9 5歳階級別転入者数・転出者数・純移動数の状況（ニセコ町）

出所：総務省「国勢調査」

総務省「住民基本台帳人口移動報告」



第2部 人口ビジョン

3. 人口の現状分析③自然増減、社会増減推移

- ニセコ町の人口増加は、自然減を上回る社会増、とりわけ外国人人口の増加に起因しており、直近はコロナ禍で流出した人口以上の外国人の社会増となっている。
- 一方で、日本人は一貫して自然減及び社会減の状況が続いている。



図2-10 自然増減、社会増減推移（ニセコ町）

出所：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」



第2部 人口ビジョン

4. 就業・雇用などの現状分析①産業別就業人口推移

- ニセコ町の就業人口を産業3部門別でみると、第一次産業は1965年以降減少傾向にある一方で、第三次産業は増加傾向にある。
- 2015年以降増えている2次産業に関しては、新幹線工事など土木、建設関連の従事者が増えたためと推察される。

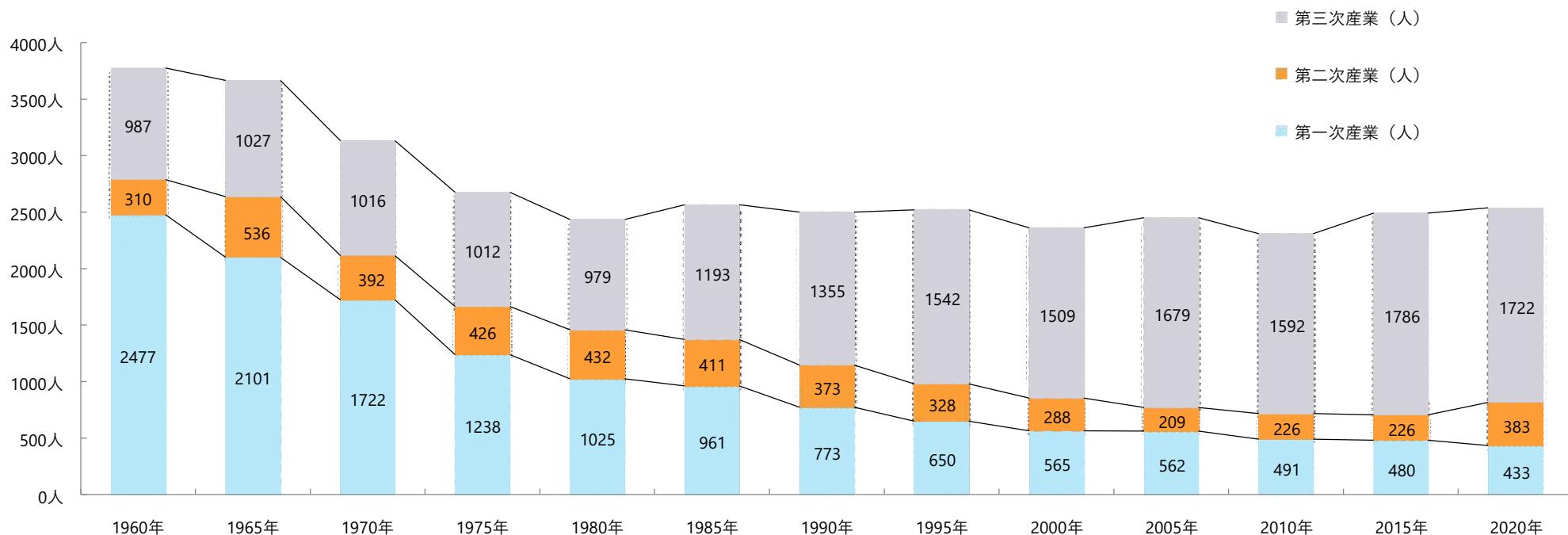


図2-11 産業別就業人口の推移（ニセコ町）

出所：総務省「国勢調査」



第2部 人口ビジョン

4. 就業・雇用などの現状分析②有効求人数・有効求職者数・有効求人倍率（3か年平均）

- 有効求人倍率は1年を通じて1以上を保っており、通年で働き手が不足していると考えられる。
- 特に冬季に向けた求人数が増える10－11月は、有効求職者数が相対的に少なく需要と供給の乖離が大きくなっている。



図2-12 月別有効求人数・有効求職者数・有効求人倍率（R3～5年、3か年平均）（ハローワーク岩内）

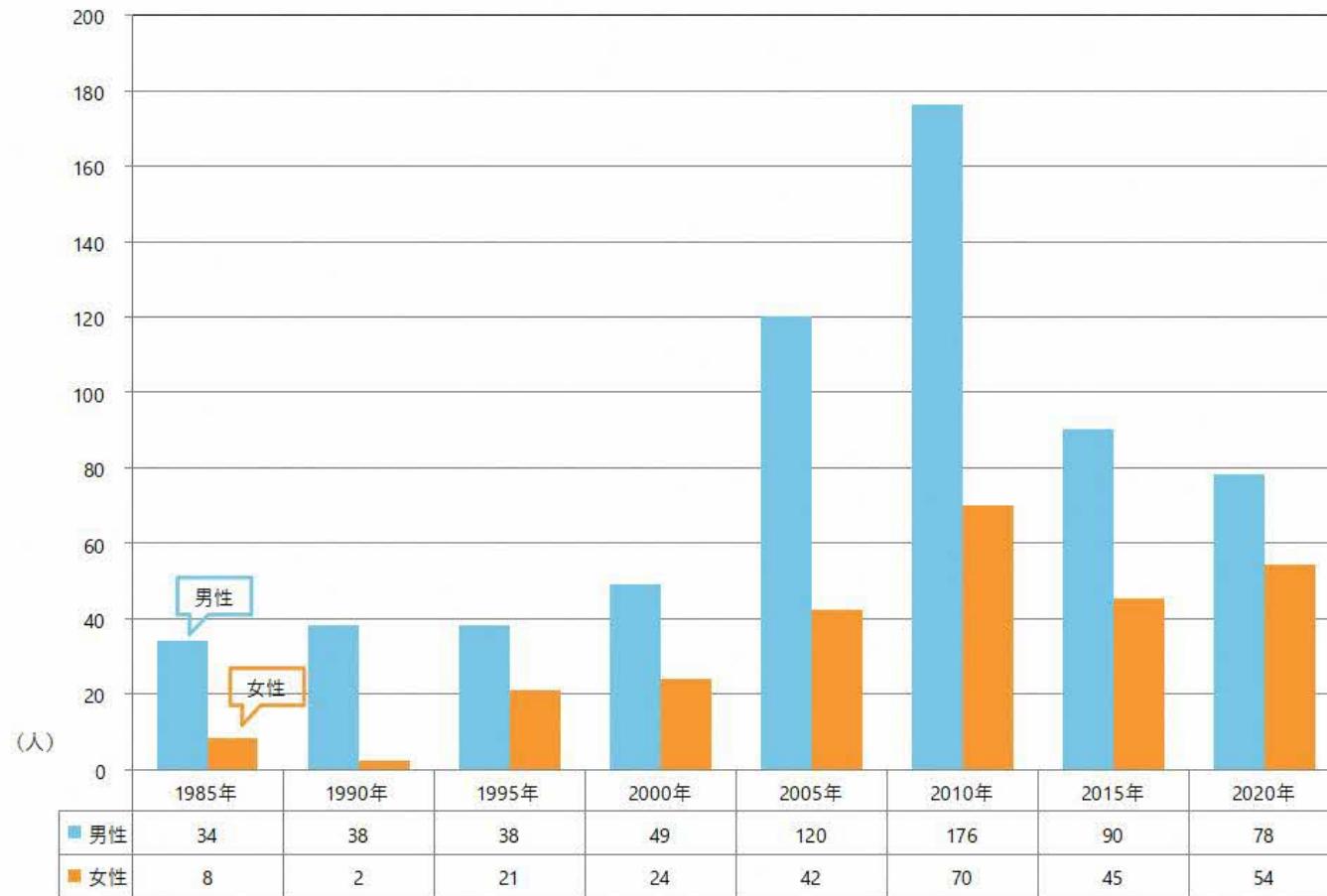
出所：ハローワーク岩内「管内の雇用失業情勢」



第2部 人口ビジョン

4. 就業・雇用などの現状分析③完全失業者数の推移（ニセコ町）

- 完全失業者推移をみると、2005年以降、特に男性失業者が大幅増加したが、2015年以降、人手不足の傾向にある中で減少へ転じている。
- 一方で女性に関して、1995年以降増加傾向にあるが、非正規雇用やパートタイム労働者の割合が男性に比べ多いことから、受景気及び経済状況による影響を受けていると考えられる。



出所：総務省「国勢調査」

図2-13 完全失業者数の推移（ニセコ町）



第2部 人口ビジョン

4. 就業・雇用などの現状分析④女性労働力率（ニセコ町）

- ニセコ町の女性の労働力率の推移をみると、2010年までは20代後半～30代前半の女性労働力が低下する傾向（60～70 %台）にあったが、2015年以降は20代後半の女性労働力率が85～90%程度まで上昇し、年代を問わず労働力は上昇傾向にある。

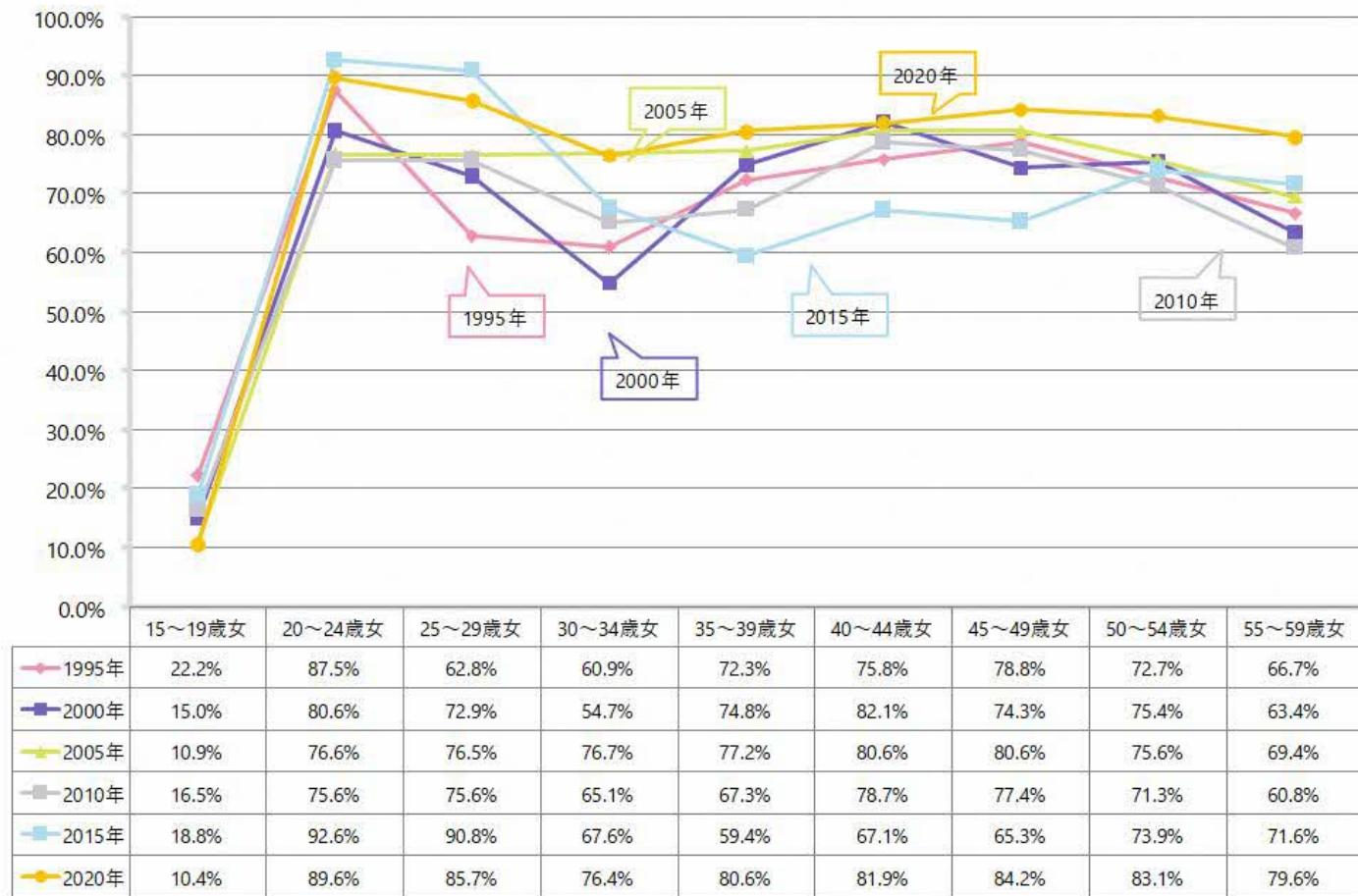


図2-14 女性労働力率（5歳階級別）の推移（ニセコ町）

出所：総務省「国勢調査」



第2部 人口ビジョン

4. 就業・雇用などの現状分析⑤従業・通学者の状況

- ニセコ町内に住んでいる従業・通学者のうちニセコ町外へ通勤・通学している人は720人。一方で町外から通勤・通学している人は835人で差し引き115人の流入となっている。
- 経済循環の観点では、町外へ資金を流出させていることになり、これらの人人が町内に住むことで雇用者所得の町外流出は減ることになる。

	町外へ流出	町内へ流入	差引 (流入-流出)
合計	720	835	115
うち道内	665	770	105
うち他都府県	8	18	10
うち不詳	47	47	0

表2-1 従業・通学者の状況①（ニセコ町）

	流出	流入	差引 (流入-流出)
合計	673人	788人	115人
道内	665人	770人	105人
倶知安町	406人	234人	-172人
蘭越町	62人	156人	94人
真狩村	57人	40人	-17人
京極町	20人	15人	-5人
留寿都村	20人	11人	-9人
札幌市	23人	141人	118人
小樽市	7人	19人	12人
江別市	2人	9人	7人
恵庭市	0人	5人	5人
伊達市	2人	5人	3人
北広島市	1人	7人	6人
余市町	1人	9人	8人
喜茂別町	8人	5人	-3人
共和町	5人	12人	7人
岩内町	6人	23人	17人
豊浦町	8人	1人	-7人
洞爺湖町	5人	8人	3人
他都府県	8人	18人	10人

表2-2 従業・通学者の状況②（ニセコ町）

出所：総務省「国勢調査」



第2部 人口ビジョン

5. 将来人口の推計と展望

- 推計の結果、総人口は、最も多い年が2035年で5,755人まで増加。その後緩やかに減少をし、2070年までに4,359人になると見込む。

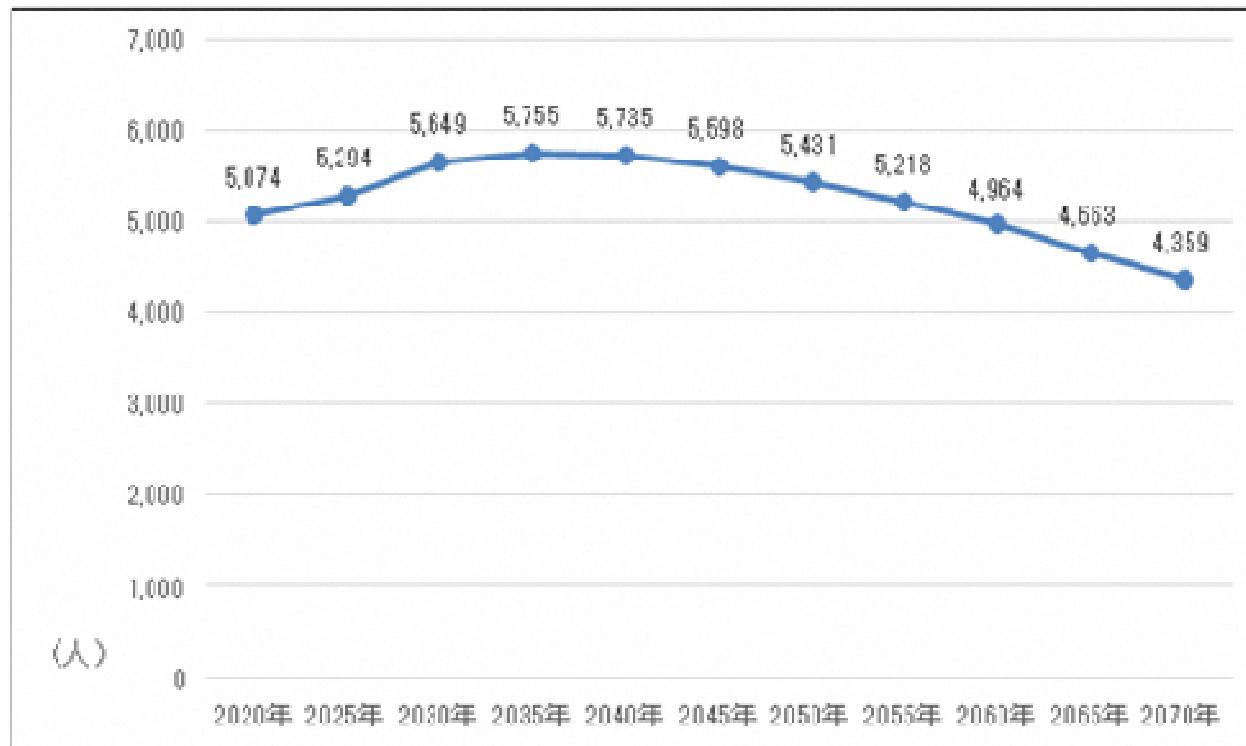


図2-15 ニセコ町独自の試算による将来人口推計

<将来人口推計の過仮定の考え方>

【合計特殊出生率】
第1期、第2期総合戦略同様に、政府の「一億総活躍国民会議」が2015年（平成27年）に示した「希望出生率1.8」へ、2040年まで段階的に上昇させ、その後水準を維持する。

【住宅整備計画】
2020年（平成27年）から2030年までの10年間で約400人分の住宅整備を目指す。
近年の町内における住宅需要の高まりを踏まえて、直近見通しに即した住宅整備数を、将来人口推計に考慮する。



第2部 人口ビジョン

5. 将来人口の推計と展望

- 人口構成は、生産年齢人口、年少人口は減少の一途をたどる一方で、65歳以上の高齢者人口が増加、2060年には一時的に生産年齢人口割合を超えると見込まれる。

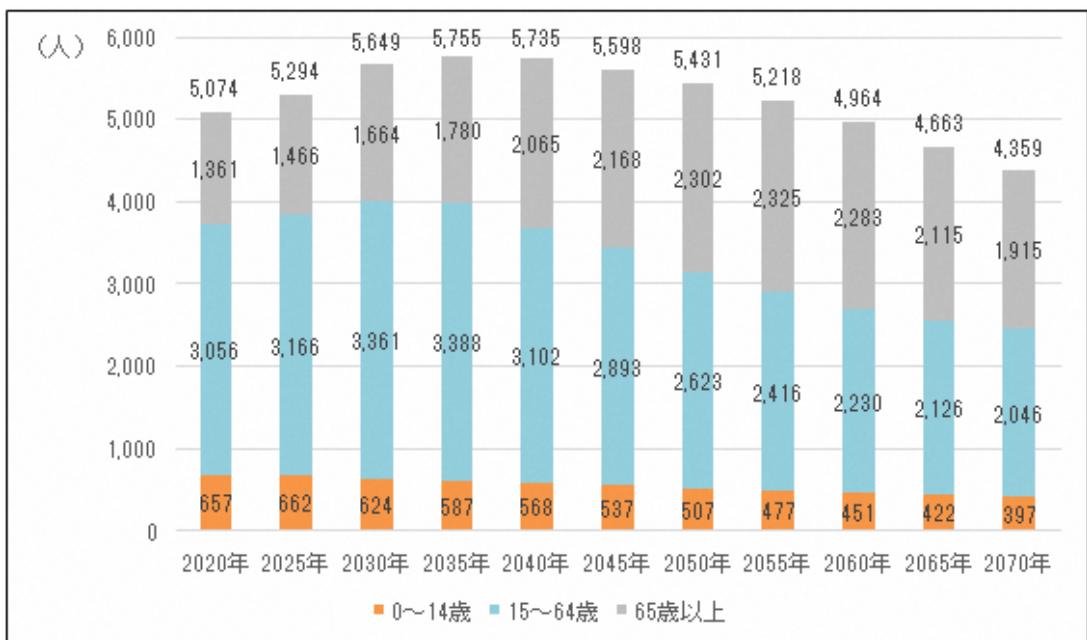


図2-16 将来人口推計（年齢3区分人口）（ニセコ町）



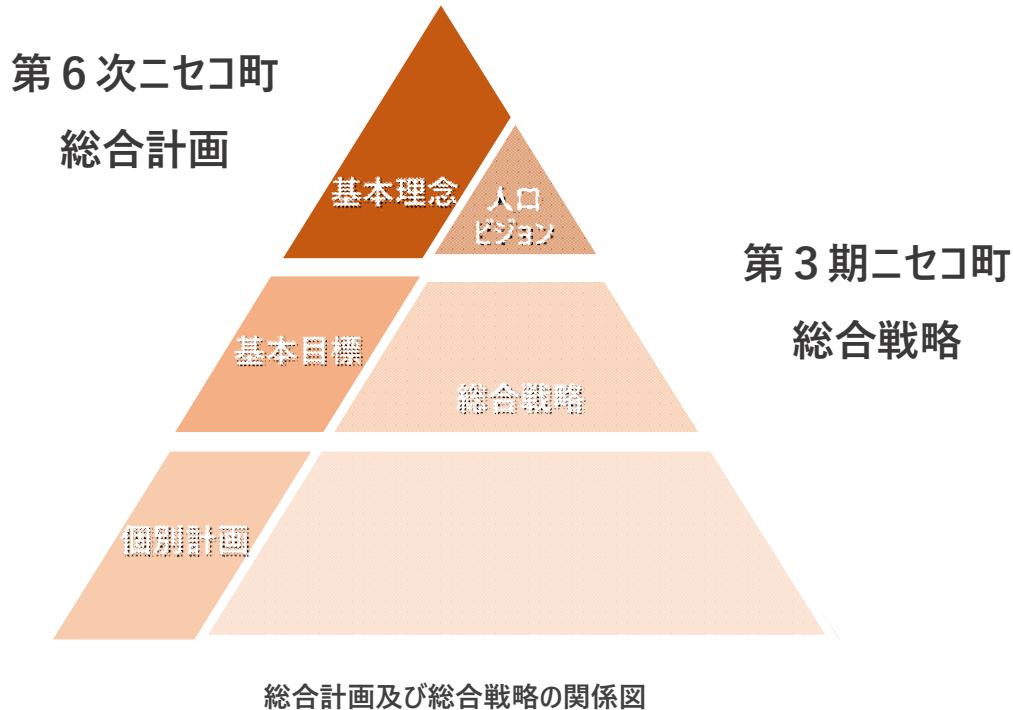
図2-17 将来人口推計（年齢3区分人口比率）（ニセコ町）



第3部 総合戦略

1. 総合計画との関係性

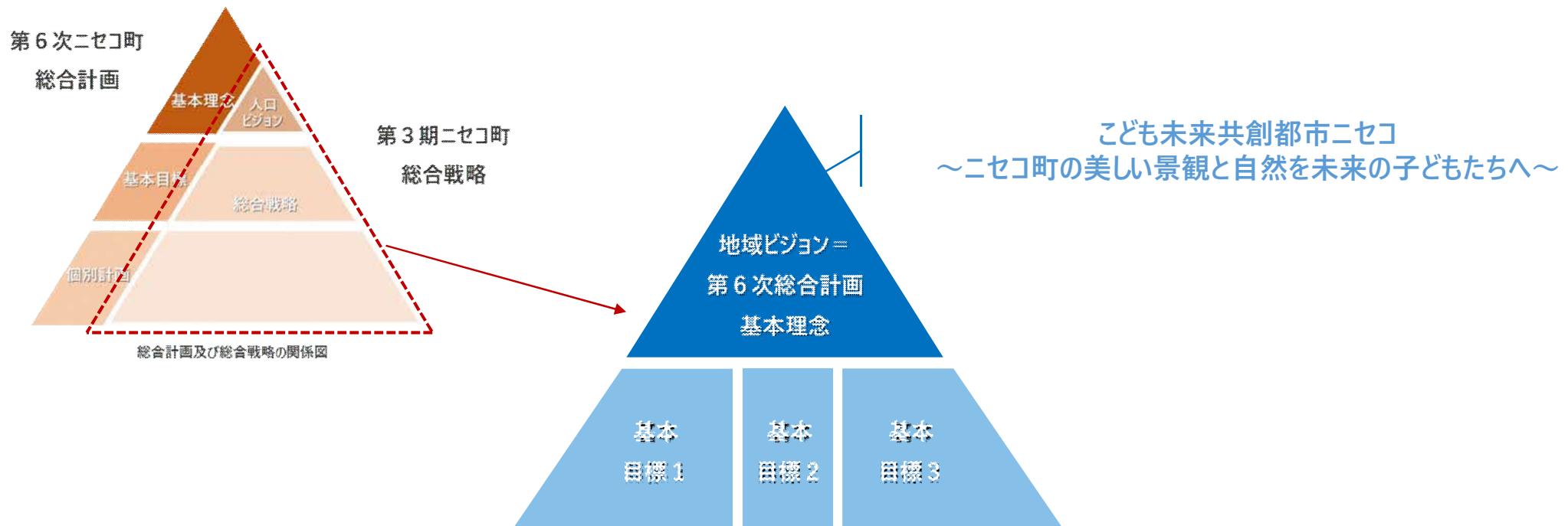
- 2024年（R6年度）からの第6次ニセコ町総合計画は、ニセコ町を将来どのような町にしていきたいか、その実現のための取組を総合的にまとめた町のグランドデザインとして位置付けている。
- 総合戦略は、総合計画が掲げる目的や趣旨の一部を共有し、両計画は整合性を図りながら推進することが重要。
- 第3期ニセコ町自治創生総合戦略は、総合計画で掲げる施策のうち、国が掲げるデジタル田園都市国家構想総合戦略に資すると見込まれるものを重要業績指標として一部活用することで、2つの計画を連携することを目指す。



第3部 総合戦略

2. 地域ビジョンと総合戦略の体系

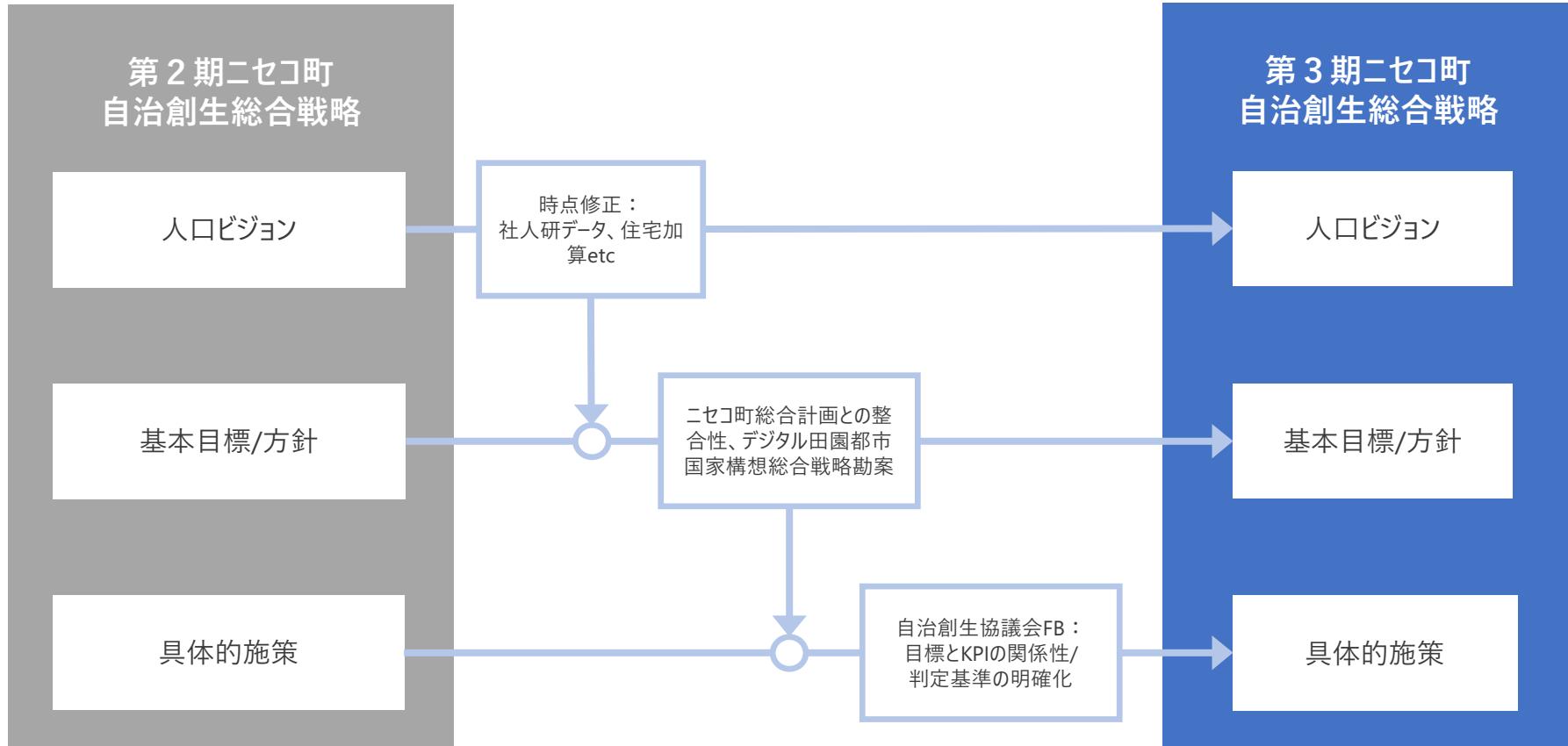
- 第6次ニセコ町総合計画（2024-2035）は本町のまちづくりにおけるグランドデザインとして位置づけられており、その基本理念や計画の趣旨は、地方創生の取り組みの基盤となるものである。
- 従って、当該計画に掲げる基本理念を本戦略の地域ビジョンと位置づけ、一貫性のある施策展開のものとでその実現に向けて各施策を進めていく。



第3部 総合戦略

3. 総合戦略策定の考え方：第2期からの修正アプローチ

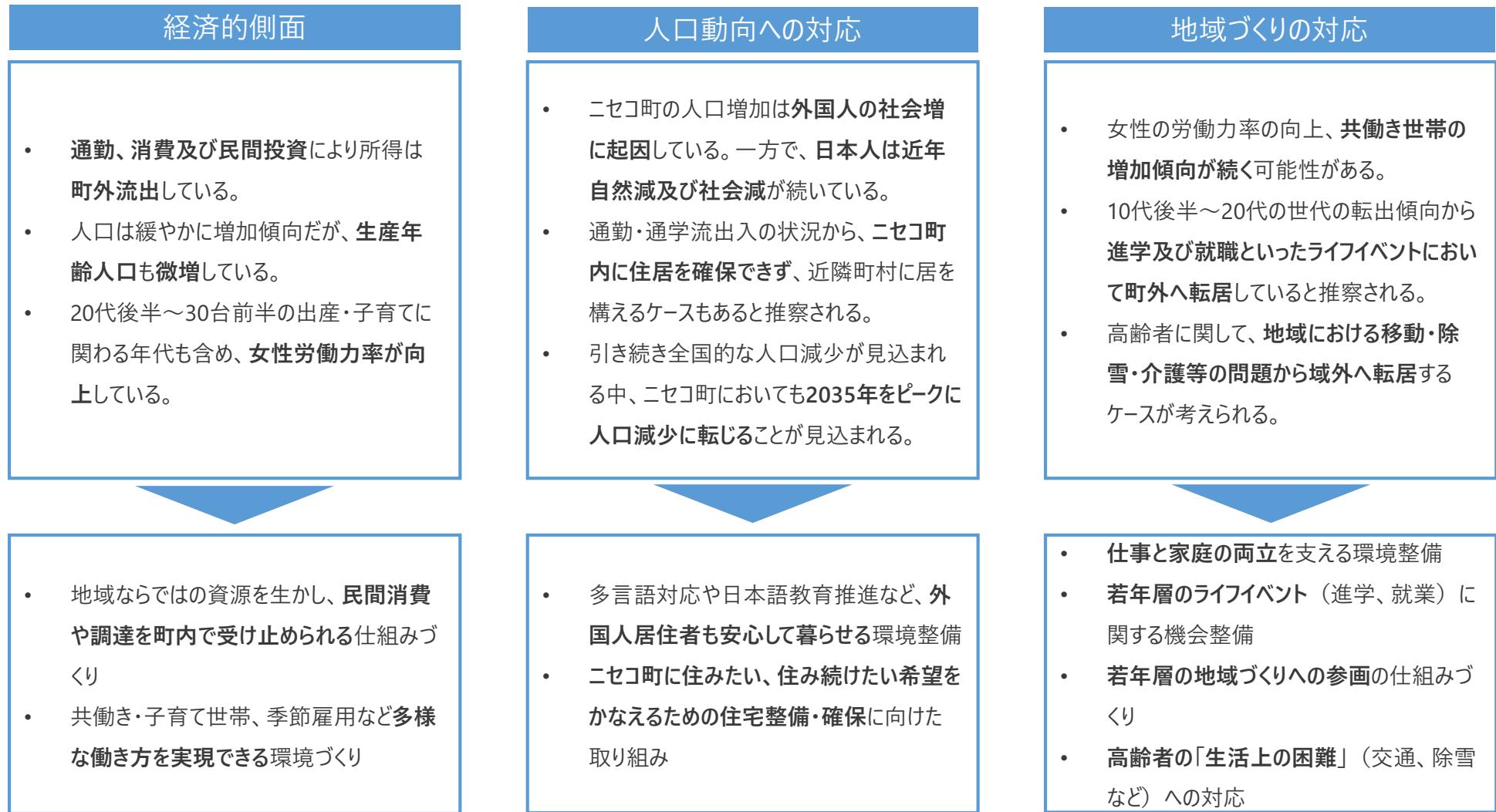
- 人口ビジョンの元となる各データの時点修正、第6次ニセコ町総合計画及びデジタル田園都市国家構想総合戦略との整合性、自治創生協議会におけるフィードバックなどを勘案し第3期ニセコ町自治創生総合戦略の策定を行う。



第3部 総合戦略

3. 総合戦略策定の考え方：人口ビジョンより見出した将来の方向性

- 人口分析の結果などを踏まえ、ニセコ町が地域ビジョン（第6次ニセコ町総合計画の基本理念）「子ども未来共創都市ニセコ」を掲げて目指すべき将来の方向性について経済・人口動向・地域づくりの観点から整理する。



第3部 総合戦略

3. 総合戦略策定の考え方：第6次ニセコ町総合計画との整合

- 第6次ニセコ町総合計画（2024-2035）と重複/関連しているテーマは総合計画の基本目標及び施策を勘案し文言を調整
- また、総合計画に紐づく個別計画の指標を可能な限り総合戦略の重要業績評価指標として連携を図る

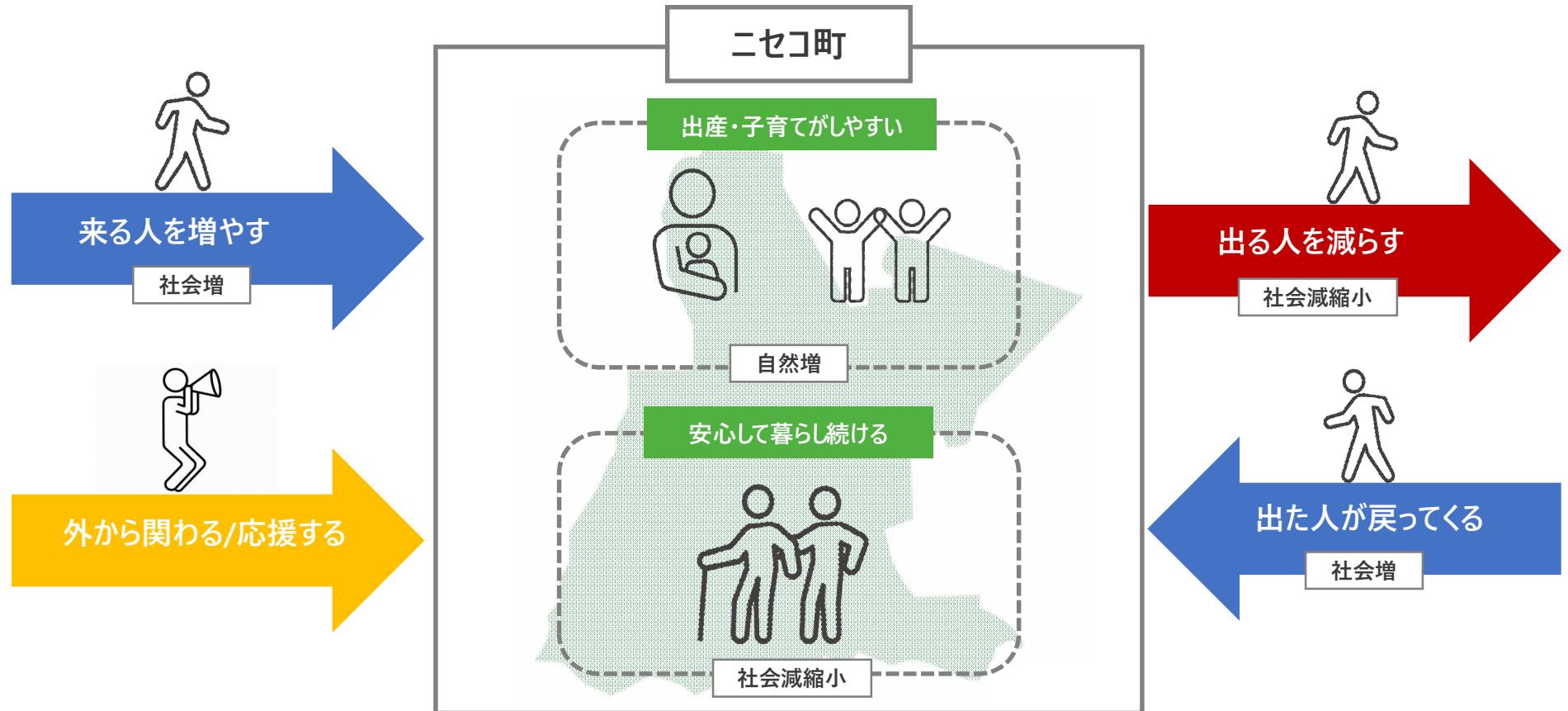
		第6次ニセコ町総合計画																						
		I ニセコの自然を守る				II みんなで学び合い、未来につなぐ					III ニセコの価値を循環させる				IV 安心・安全の暮らしやすさを高める				V 相互扶助のまちをつくる					
基本理念		自然環境・景観・土地利用に関するルールづくり	水資源の保護	ゼロカーボンの取組推進	森林からの恩恵を得るためにの管理・整備の推進	地域全体での子育て支援	自然体験活動の充実	英語教育の推進	シビックプライドを育む新しいニセコ高校の改革	スポーツ環境の整備	障害学習リーダーの育成	経済を循環させる仕組みづくり	担い手の確保と労働環境の改善	多様なチャレンジへの支援	ニセコブランドの価値の向上	適切な医療提供体制の整備の推進と予防への取組	地域共生社会実現に向けた取組の推進	誰もが快適で安心できる住まいづくり	災害に強いまちづくり	地域公共交通の充実	情報発信とコミュニティ活動の推進	多文化共生社会の形成	男女共同参画の取組推進	相互扶助思想の継承
第2期ニセコ町自治創生総合戦略	人口ビジョン、地域ビジョン	基本理念 = 地域ビジョン																						
	1. 地域資源を生かした産業の育成と多様な働き方を実現できる環境づくり																							
	地域資源を生かした産業の創出・振興											○	○											
	持続可能な農業の展開											○	○	○										
	地域産業を支える人材の育成と雇用の創出											○	○	○										
	2. 交流人口、関係人口の拡大と居住環境の整備																							
	地域資源を生かした観光の振興											○		○										
	「関係人口」の拡大											○	○											
	戦略的な移住・定住対策の推進											○	○	○	○									
	新住宅の整備・確保の推進											○												
3. 魅力的で持続可能なまちづくりの推進	安心して住み続けることのできる生活環境の整備					○					○	○				○	○	○	○	○	○	○		
	ニセコへの共感、愛着心の醸成					○	○	○							○		○		○	○	○	○		



第3部 総合戦略

3. 総合戦略策定の考え方：人口流出入の観点から基本目標、方向性を整理

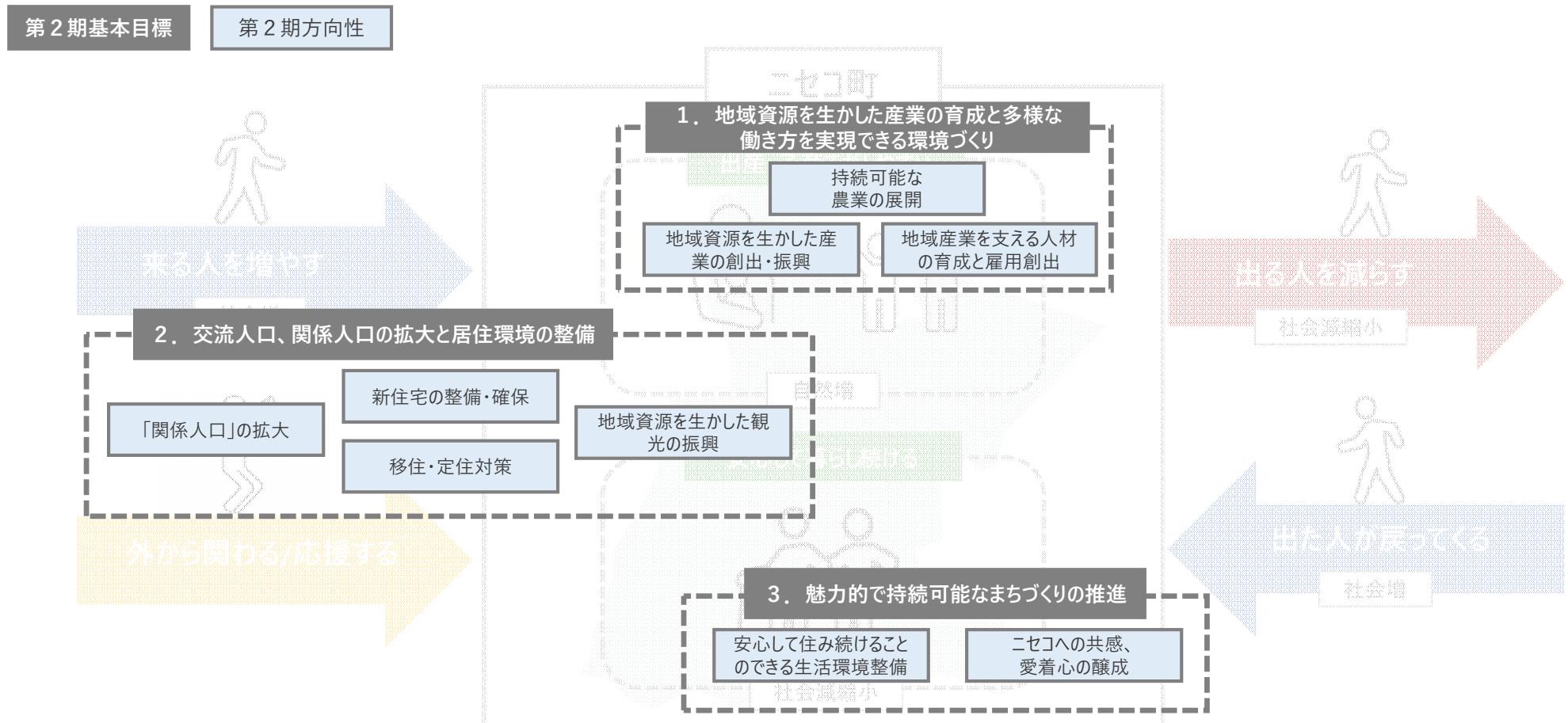
- 人口流出入の観点から人口ビジョン、総合計画などを踏まえて基本目標、方向性を整理する。



第3部 総合戦略

4. 第3期自治創生総合戦略：人口ビジョン及び総合計画を踏まえた基本的方向性の整理

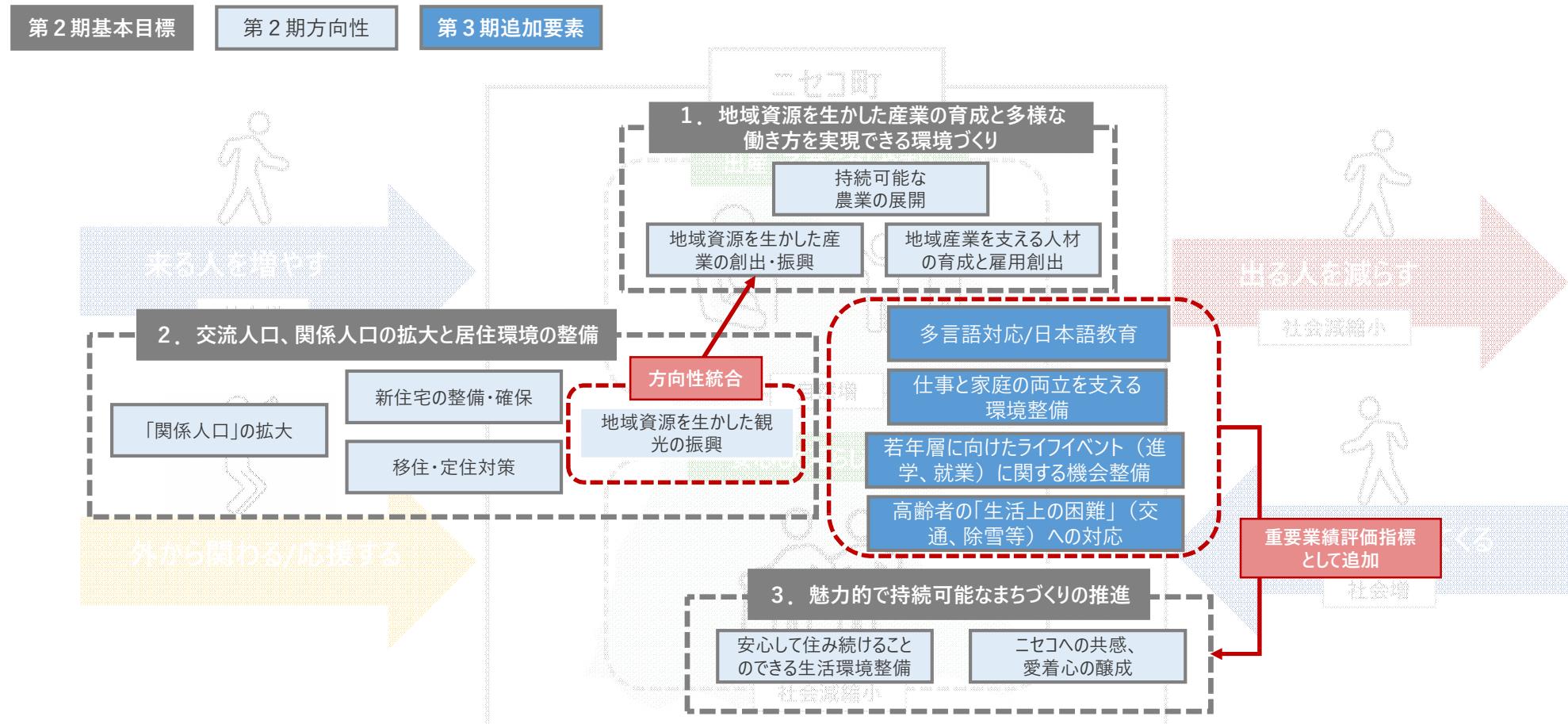
- ニセコ町自治創生総合戦略に掲げる施策の基本目標は、ニセコ町人口ビジョンや総合計画などを踏まえ再整理する。



第3部 総合戦略

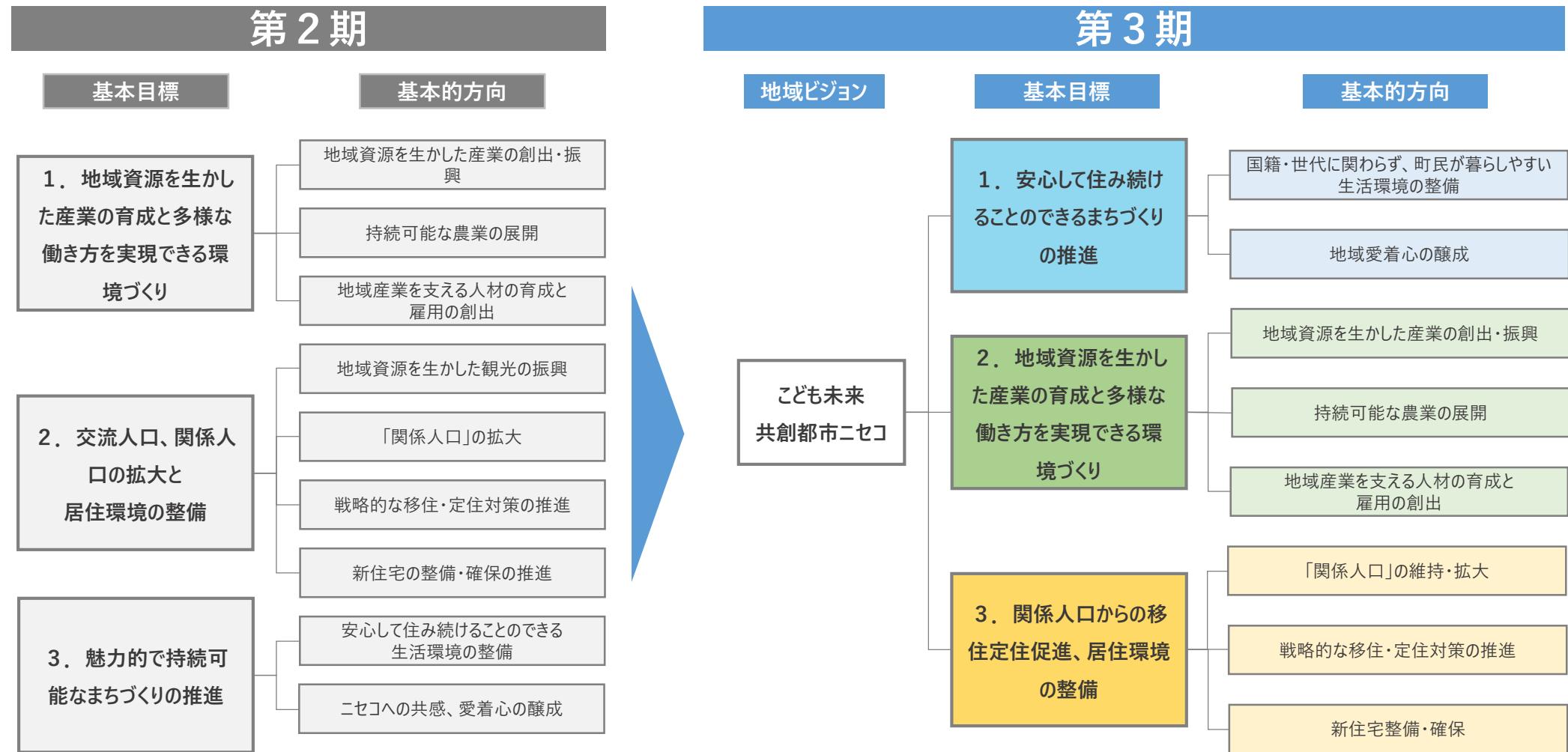
4. 第3期自治創生総合戦略：人口ビジョン及び総合計画を踏まえた基本的方向性の整理

- ニセコ町自治創生総合戦略に掲げる施策の基本目標は、ニセコ町人口ビジョンや総合計画などを踏まえ再整理する。



第3部 総合戦略

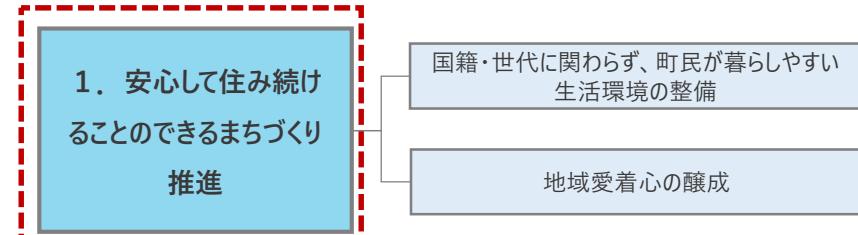
4. 第3期自治創生総合戦略：全体像



第3部 総合戦略_基本目標ごとの方向性・具体的施策

5. 基本目標1：安心して住み続けることのできるまちづくり推進

- 若年層、高齢者、共働き世帯、海外からの移住者など、多様な人々が安心して住み続けることができるまちづくりに向けた生活環境の整備を行う。
- また、ニセコならではの特色ある教育、文化の充実を図り地域への愛着心の醸成に繋げる。



【数値目標】

基本目標	数値目標	単位	基準値*	2029年度（R11年度）
安心して住み続けることのできるまちづくり推進	地域幸福度Well-Being指標_幸福度（単年）	度数	6.5	7.5
	「地域/社会をよくしたい」と考える小・中学生の比率 (全国を100とした場合の相対値)	%	70.4	90.0

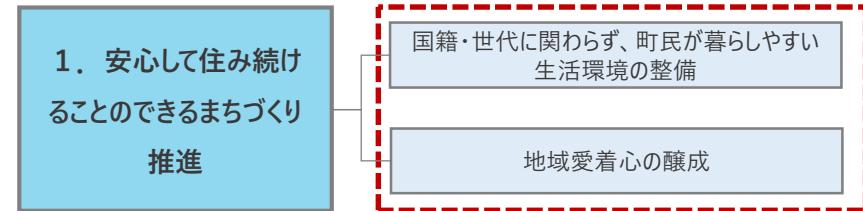
*2023年度（R5年度）のデータ



第3部 総合戦略_基本目標ごとの方向性・具体的施策

5. 基本目標1：安心して住み続けることのできるまちづくり推進

- 若年層、高齢者、共働き世帯など、多様な人々が安心して住み続けることができるまちづくりに向けた生活環境の整備を行う。
- また、ニセコならではの特色ある教育、文化の充実を図り地域への愛着心の醸成に繋げる。



【重要業績評価指標（KPI）】

方針	重要業績評価指標（KPI）	単位	基準値*	2029年度（R11年度）	関連計画、事業など
国籍・世代に関わらず、町民が暮らしやすい生活環境の整備	女性労働率（単年）	%	58	54	
	待機児童数（単年）	人	0	0	ニセコ町こども・子育て支援事業計画
	ニセコこども館利用登録者数（単年）	人	87	120	ニセコ町こども・子育て支援事業計画
	放課後こども教室の利用登録者数（単年）	人	67	100	ニセコ町こども・子育て支援事業計画
	小・中・高等学校における日本語サポートスタッフ数（単年）	人	2	3（仮）	
	ニセコワールドビレッジ参加人数（単年）	人	—	500（仮）	
	平均自立期間（要支援・要介護）男性（単年）	年齢	79.1	79.5	ニセコ町第9期高齢者保健福祉計画
	平均自立期間（要支援・要介護）女性（単年）	年齢	81.9	82.0	ニセコ町第9期高齢者保健福祉計画
	デマンドバスの蹄め率（単年）	%	5.1	4.0	ニセコ町地域公共交通計画
地域愛着心の醸成	国際交流イベント参加人数（単年、累計）	人	1,409	2,000	
	ニセコミライ主催イベントの参加人数（単年）	人	97	200	多様な連携による持続可能なまちづくり推進
	こどもまちづくり委員会（単年）	人	11	15	

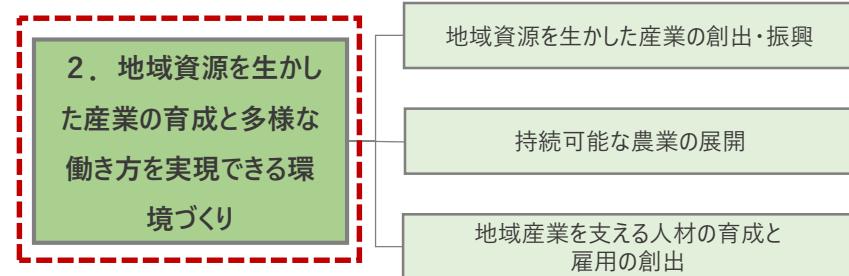


第3部 総合戦略_基本目標ごとの方向性・具体的施策

5. 基本目標2：地域資源を生かした産業の育成と多様な働き方を実現できる環境づくり

- ニセコ町の地域資源を生かした魅力的な産業を育成するとともに、多様なライフスタイルに対し、かつ安定した収入が得られる働き方を実現することのできる環境を整備する。

【数値目標】



基本目標	数値目標	単位	基準値*	2029年度（R11年度）
地域資源を生かした産業の育成と多様な働き方を実現できる環境づくり	完全失業者数（単年）	人	132	160
	個人の給与所得金額（単年）	百万円	5,672	6,321

*2023年度（R5年度）のデータ

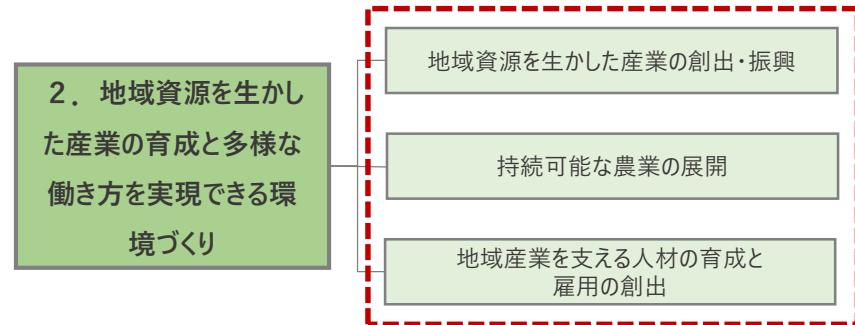


第3部 総合戦略_基本目標ごとの方向性・具体的施策

5. 基本目標2：地域資源を生かした産業の育成と多様な働き方を実現できる環境づくり

- ニセコ町の地域資源を生かした魅力的な産業を育成するとともに、多様なライフスタイルに対し、かつ安定した収入が得られる働き方を実現することができる環境を整備する。

【重要業績評価指標（KPI）】



重要業績評価指標（KPI）	単位	基準値*	2029年度（R11年度）	関連計画、事業など
持続可能な農業の展開	「道の駅ニセコビュープラザ」直売所における農産物の売上額（単年）	百万円	336	350
	ワイン特区を活用して就農した農業者又は醸造所開設希望者数（期間累計）	人	4	3
	就農支援金を活用して就農した農業者数（期間累計）	人	8	10
地域資源を生かした産業の創出・振興	「道の駅ニセコビュープラザ」情報プラザの売上額（単年）	百万円	149	160
	商工会会員の脱会率（期間平均）	%	2.3	2.3
地域産業を支える人材の育成と雇用の創出	「季節雇用と担い手マッチング」の件数（期間累計）	件	0	5
	特定地域づくり協同組合のワーカー数（期間累計）	人	－	10

*2023年度（R5年度）のデータ

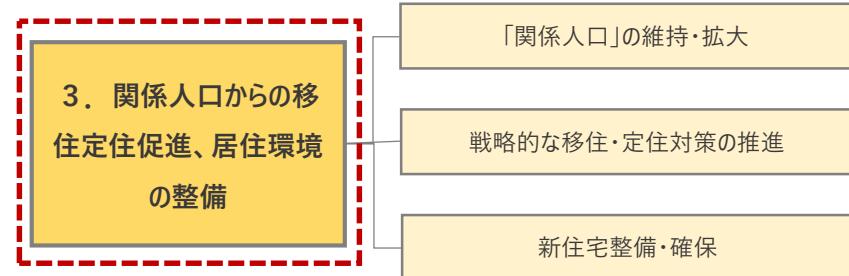


第3部 総合戦略_基本目標ごとの方向性・具体的施策

5. 基本目標3：関係人口からの移住定住促進、居住環境の整備

- ニセコ町や地域と多様に関わる「関係人口」に対して、移住定住につながるような方策を検討、実施する。
- また、ニセコ町に住みたい、住み続けたいという希望を実現することのできる居住環境を整備する。

【数値目標】



基本目標	数値目標	単位	基準値*	2029年度（R11年度）
関係人口からの移住定住促進、居住環境の整備	総人口の社会増減（R7～R11）	人	393	393

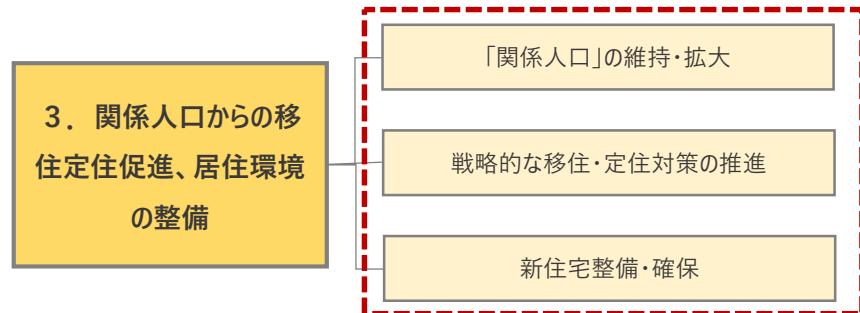
*2023年度（R5年度）のデータ



第3部 総合戦略_基本目標ごとの方向性・具体的施策

5. 基本目標3：関係人口からの移住定住促進、居住環境の整備

- ニセコ町や地域と多様に関わる「関係人口」に対して、移住定住につながるような方策を検討、実施する。
- また、ニセコ町に住みたい、住み続けたいという希望を実現することのできる居住環境、住みよいまちづくりのための環境を整備する。



【重要業績評価指標（KPI）】

方向	重要業績評価指標（KPI）	単位	基準値*	2029年度（R11年度）	関連計画、事業など
「関係人口」の維持拡大	ふるさとづくり寄付金の件数（R7～R11）	件	1,486	6,000	ニセコ町自治創生総合戦略
	ふるさと住民票の登録者数（累計）	人	226	326	
	地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）の件数（単年）	件	14	25	ニセコ町自治創生総合戦略
戦略的な移住・定住の促進	移住相談窓口における面談件数	件	97	100	
	地域おこし協力隊の卒隊3年後の定住率	%			
新住宅の整備・確保	住宅整備戸数（期間累計）	戸	210	200	ニセコ町住生活基本計画
	昼夜間人口比率	%	102.4	100.0	

*2023年度（R5年度）のデータ



第4部 総合戦略の推進体制、進行管理

- ニセコ町における自治創生を着実に推進し、成果につなげられるよう、以下に示す推進体制を構築するとともに、数値目標の実績値等を踏まえ、P D C A サイクルによる総合戦略の推進を図ることとする。

1. 推進体制

(1) ニセコ町自治創生推進本部

地方創生に関する施策を全庁的に推進するため、町長を本部長とする「ニセコ町自治創生推進本部」において、人口ビジョン及び総合戦略と、それに関連する事項の検討・推進を行う。

(2) ニセコ町自治創生協議会

町民（公募）や、産業界、行政機関、大学、金融機関、労働団体、言論界などにおいて自治創生に見識を有する者を構成員とする「ニセコ町自治創生協議会」において、ニセコ町の自治創生に関する基本的な事項に関する総合的な調査・審議を行う。

(3) 町民意見の反映

まちづくり町民講座やアンケート調査などを通じて、町民参加の機会を積極的に設けるとともに、そうした機会を通じて得られた意見を踏まえ、今後の施策を検討する。

(4) 北海道ニセコ高等学校との連携・協働

地域の人材や関係機関との協働による多様な授業や活動を行っている北海道ニセコ高等学校と連携し、学校が実施する地域づくりに関連する取組を支援するとともに、生徒の発想や行動力、将来の地域づくりの担い手としての視点などを施策に反映することのできる仕組みを構築する。

(5) 近隣自治体や関係機関との連携

北海道後志総合振興局や近隣の市町村などと課題や基本的な認識を共有して施策連携を進めるとともに、札幌市や東京都の地方自治体、民間企業、NPOなどとの連携・協働により、都市圏における事業を効果的に展開する。



第4部 総合戦略の推進体制、進行管理

- ニセコ町における自治創生を着実に推進し、成果につなげられるよう、以下に示す推進体制を構築するとともに、数値目標の実績値等を踏まえ、P D C A サイクルによる総合戦略の推進を図ることとする。

2. 進行管理

(1) 数値目標及び重要業績評価指標（K P I）による進行管理

総合戦略に対応する施策の効果を客観的に把握するため、基本目標ごとに設定している数値目標と、基本的方向ごとに設定している重要業績評価指標（K P I）について、毎年度、進行管理の基礎データとして実績値を取りまとめ、評価指標として用いる。

(2) P D C A サイクルによる推進

数値目標及びK P Iの実績値に加え、総合戦略に基づき実施した施策・事業の実施状況や課題などを整理し、「自治創生推進本部」及び「ニセコ町自治創生協議会」において効果を検証・評価し、その結果を踏まえ、必要な改善や見直しを実施するPDCAサイクルにより行う。



参考資料 第3次ニセコ町自治創生総合戦略 検討・意見聴取の経過

年月日	項目	内容
令和6年（2024年） 10月21日	第15回（令和6年度第1回）自治創生協議会	報告事項： ・ニセコ町自治創生総合戦略の進捗状況について 審議事項： ・「第3期ニセコ町自治創生総合戦略」の策定について ・「第2期ニセコ町自治創生総合戦略」の検証について
12月17日	第16回（令和6年度第2回）自治創生協議会	報告事項： ・委員の委嘱について ・座長及び副座長の選任について 審議事項： ・「第3期ニセコ町自治創生総合戦略」の策定について
令和7年（2025年） 2月7日	第17回（令和6年度第3回）自治創生協議会	審議事項： ・「第3期ニセコ町自治創生総合戦略」の策定について
2月13日 ～2月xx日	総合戦略（案）の縦覧 (パブリックコメント)	意見等：x x 件
2月13日	第2回 まちづくり町民講座	・第3期自治創生総合戦略について（役場企画環境課）
2月xx日	x x x (議会報告)	報告事項： ・「第3期ニセコ町自治創生総合戦略」の策定について



参考資料 ニセコ町自治創生協議会 委員名簿

氏 名	所属・役職	備 考
荒木 順子	ニセコビュープラザ直売会協同組合 理事長	
石田 恭太	北洋銀行倶知安支店 支店長	
奥田 啓太	ニセコ町移住定住支援員、元ニセコ町地域おこし協力隊	
小磯 修二	一般社団法人 地域研究工房 代表理事 北海道文教大学 地域創造研究センター長	
下田 伸一	株式会社北海道ライオンアドベンチャー 代表取締役 株式会社ニセコリゾート観光協会 代表取締役	
高井 啓	株式会社ニセコ風土 代表 株式会社高橋牧場	
本間 泰則	羊蹄グリーンビジネス株式会社 代表取締役 ニセコ町環境審議会 会長	
前川 信一	北海道銀行NISEKO出張所 所長	
八木 由起子	株式会社えんれいしゃ 「北海道生活」編集長	
李 濟民	小樽商科大学名誉教授 グローカル戦略推進センター産学官連携推進部門フェロー	

